基本31枚
全176枚
放課後フタセク生配信!!
母娘相姦チャンネル

母娘相姦チャンネル～放課後フタセク生配信～

「あら、美保ちゃぁ～ん♪やぁっと帰ってきたのねぇ。おかえりなさぁ～い」

「ふぅ…、ただいまぁ～。…ん？もう配信始めちゃってるのぉ～？」

「そうよぉ～。ほら、美保ちゃん。ちゃぁんと、カメラに向かって挨拶して♪早速2人で始めるわよぉ～」

「…はぁ～い」

「はい、みなさぁん。こちらが私、麻美の娘のぉ～」

「もうっ、ママってば！名前くらいアタシだって自分で言えるわよっ！」

「あら、そう？うふふ♪」

「コホンっ！はぁい、やっほ～！視聴者のみなさぁん、アタシは美保でぇす♪今日はママとたくさんエッチなことをしていくからね。…あ、ママばっかり見ちゃイヤだからね？」

「あら、言うようになったわねぇ～。皆さん、私の人妻ボディ♡にもぉ、見とれて行ってくださいねぇ～？」

「もう、またおっぱい見せつけてぇ！…みんなも反応しすぎだしっ！全く…」

「あら、『2人共仲いい』だって！うふふ。みんなにはそう見えるみたいよ？」

「はぁ？どこが仲がいいのよぉ！そんなわけないしっ！」

「もう美保ってば照れちゃってぇ～♪…それじゃあ、美保も揃ったことだし、『母子相姦チャンネル～放課後フタセク生配信～』始めるわよぉ～」

「コメントもガンガンよろしくねぇ～♪」

「この生配信ではぁ～、私たち親娘のとってもエッチなフタセクが見られまぁ～す♪」

「お互いを肉便器にしたり、されたり～っ！激しい母子相姦を見てってくださぁい♪」

「…始めるのはいいんだけど、美保。そういえばあなた、帰りが遅かったじゃないの。ママ、待ちくたびれちゃったわよぉ～？」

「部活が長引いたんだから！仕方ないじゃない！それを言うならママだって…！」

「あら、ママだって、何よぉ？」

「ふんっ、いつもは2人揃って始めるのにぃッ！1人で始めちゃうなんてっ！ずるいよぉ…っ！」

「あら、ごめんなさいねぇ。美保があんまり遅いからぁ、始めちゃった♪」

「もうっ！」

「でもぉ、この時間から始めるのはいつものことだし、ね？皆さん待たせちゃあ、ダメでしょ？」

「…うぅ、それはそうだけどぉ」

「ほらっ、『待ちくたびれた』ってコメントばっかり来てるわよ？」

「うぅ～、ごめんなさい…」

「うふふ。遅刻しちゃった悪い子にはぁ～♪ママからのきっつ～いお仕置き、してあげなきゃねぇ～？」

「はぁっ？！なんでそうなるのよっ！」

「ほら、視聴者の皆さんも期待してるみたいよぉ？」

「うぅ～っ！もう！部活で遅くなっただけなのにぃ～ッ！」

「なになに？『お尻ペンペン期待』、『娘ちゃんのアナル見たい』？」

「もう！みんな！さっきはコメントしてって言ったけどぉ！なんでも言っていいわけじゃないわよっ？！」

「はぁい。それじゃあ両方やっちゃおうね～！美保ちゃん、カメラに向かっておしり向けちゃおっか！」

「はぁい、まずは美保のアナルっ♪ご開帳～」

「あぁ…っ、ちょっとママっ！」

「あら、ここの中はピンクで可愛いわねぇ～。皆さぁん、見えますかぁ？」

「もうっ、いきなり拡げないでよぉっ！うぅ…っ、お仕置きってこんなのが続くのぉ～？」

「そうよぉ、美保も頑張ってね。…あら、写ってないって？それじゃあ、もっとカメラを近づけてぇ～♪」

「うぅ…っ。なんでアタシがお尻の穴なんてぇ…っ！」

「これなら見えるかしら？うふふ。美保ちゃん、皆さんにアナルの内側まで、見られちゃってるわよぉ～？」

「ママっ、そんなこと言わないでよぉ…！や、やだぁ…っ」

「うふふ。部活の後のぉ、汗まみれのアナル、じぃ～っくり、見てあげてねぇ？」

「うぐッ、そんなに汗かいてないし！」

「そうかしらぁ？その割には、ちょ～っと汗臭いんじゃないのぉ？」

「そんなことないっ！み、みんな、本気にしないでよ？！」

「あ～あ、このくっさぁ～い香り。みんなに嗅いでもらえないのが残念だわぁ～！」

「もうっ、調子に乗らないで…っ！」

「嫌がってる割にはぁ～♪うふふ。美保のおまんこ、ヌレヌレじゃない？」

「…ち、違うしっ！」

「あら、何が違うのかしらぁ～？こんなにたっぷりに濡らしておいて♪」

「こ、これは…！そ、そう、汗っ！部活でかいた汗だからっ！」

「うふふ。これのどこが汗なのぉ～？こぉんなに粘ついた液♪汗って言わないわよねぇ？」

「ううっ、ちょっと！カメラに近づけないで！」

「ねぇ、皆さん。どう思いますぅ？私の指についた、この、粘ついた液♪」

「やだ…っ、ママってばぁっ！」

「ほら、みんな口を揃えて『愛液』って言ってるわよぉ？美保ちゃん、これは愛液、でしょ？」

「くッ、くうぅ～っ！」

「ほら、認めなさい？お尻の穴を見られて感じちゃった、って。見られて、濡らしちゃったって」

「…うぅッ、そんなの認めないっ！認めないんだからぁっ！」

「…もう、美保ったら強情な子ねぇ♪」

「そんな子はっ、ママのお尻ぺんぺんを食らいなさいっ！」

「え…？…んッほぉぉっ？！」

「こらっ！こらっ！この淫乱娘っ！」

「…んあぁっ！おほぉっ！」

「こらっ！お尻叩かれても感じてるのかしらぁっ？この子はっ！おまんこの次はおちんちんまで濡らしちゃってっ！」

「あひぃいんッ！おぉッ！…んおぉっ？！」

「これはちゃんとした躾なんだからっ！こらっ！ちんぽも勃起させないのっ！」

「…んおぉッ！おほぉ…ッ！ママぁ…ッ、ママだめぇ…ッ！お尻はだめなのぉ…ッ！」

「美保ちゃん。みんなに『変態』、『淫乱』って言われてるわよぉ？そうよねぇ。お尻叩かれてちんぽの先っぽ濡らすなんて。おかしいわよねぇ？」

「んおぉっ！…う、うるさいっ！アタシ、淫乱なんかじゃ…、ないもんッ！んほぉぉんッ！」

「下品な喘ぎ方しちゃってぇ。もう、なんてエッチな子なのっ！こらっ！」

「…んほぉぉんッ！ひゃあぁ…ッ？！」

「ホントに反省してるのかしら？こらっ、こらぁっ！叩かれながら腰浮いちゃってるわよぉ？こらぁッ！」

「ううぅッ、反省してますからぁぁッ！おほぉんッ！ご、ごめんなさいッ！お仕置きで興奮しちゃってごめんなさいぃ～ッ！あッひぃぃんッ！」

「あら、ちゃんとごめんなさいが言えたわね。えらいえらい。それじゃあ、ひとまずお尻叩きはおしまい。次はぁ～」

「うふふ、次のお仕置きはぁ、尻肉ぐいーっ♪って引っ張ってぇ。もぉっとアナルを丸見えにしてあげましょうね～」

「ちょ、ちょっとやめて…ぇっ！ひゃぁんッ！さっきのでお仕置き終わりじゃないのッ？！」

「まだまだよぉ？叩かれて感じちゃった美保アナル、みんなにたぁ～ぷり見てもらいましょうねぇ♪んっ、ぐい～っ！」

「やだ…っ、やだぁ…っ！はひ…っ！」

「うふふ。お尻に力を入れたってムダよ。感じちゃって力の抜けた美保が、ママに敵うわけないでしょ？ほぉら、ぐい～っ！美保の淫乱アナルがヒクヒクしちゃってるの、よぉく見えるわよぉ？」

「んおぉ…っ？！恥ずかしいところ…ッ、見えてるッ！これ絶対ッ、みんなにアナルッ、見えちゃってるぅ…ッ！…ッあぁんっ！」

「入口のシワをスリスリ～♪これ、気持ちいいかしらぁ～？」

「ひゃあぁ…ッ、そんなところ触らないでよぉっ！…き、気持ちよくないしぃッ！あぁ…ッ、んおぉ…ッ！」

「あらあら。もじもじしちゃってぇ。ふふ、もぉっとスリスリしてあげましょうねぇ～♪」

「うぅ…ッ、あひぃ…ッ！だめ…ッ、そんなに触っちゃ…ぁッ！」

「それにしても我が娘ながら、綺麗なアナルねぇ。美味しそう…っ、うふふ」

「…お、美味しそうって何よ！…もう！んひゃぁッ、…ママの方が変態じゃないっ！」

「あらあら。私が変態ですって？みんなにお仕置き見られて濡らしちゃう、美保ちゃんには負けるわよぉ～、ねぇ？」

「ううぅ～っ！それは違うって言ってるのにぃ…っ！」

「…そうかしらぁ？でも美保。ホントは今も欲しがってるんじゃないのぉ？ママの指がアナルの入口撫でる度にぃ～。太腿モジモジさせちゃってるわよぉ？」

「これは…っ、くすぐったいだけだしっ！んひっ、ほぉん…ッ！」

「ほら、その勃起ちんぽ、こっち向けてみなさい。もちろん、画面の前の皆さんに、よぉく見えるようにぃ、脚をぱっかり開くのよぉ？」

「う…っ、うぅ…っ。アナルの次はちんぽ見られるのぉ…？こんなのッ、恥ずかしいよぉ…っ！」

「恥ずかしいって言いながらぁ。美保ったら素直に従っちゃうのねぇ～。ホントはここに、快感が欲しかったのよねぇ？」

「ほぉんッ！あぁ…んッ！指…っ、だめぇ…ッ！」

「うふふ。こうやって穿られるの、イイでしょ？アナルとおまんこ、指先で同時にぃ～、くちゅくちゅ～っ♪」

「おほッ、ほぉん…ッ？！何これ…ッ、すごぉ…ッ！あひッ、ひぃ…ッ！んほぉぉッ！」

「あらあら。首を反らしながら喘いじゃって可愛いわねぇ。ちょっと指でクチュクチュしてあげてるだけなのに」

「…お…ッほぉッ、んおぉ…ッ！」

「今度はおちんぽも一緒にぃ…っ。スリスリ～、シコシコぉ～♪」

「ッおッほぉぉ～ッ？！んほッ、あひぃんッ！…全部同時は…ぁッ、だめぇ…ッ、もうやめてぇ…ッ！」

「あらあら、なっさけないわねぇ～。私の娘なんだから、もっといけるでしょ？ほらっ、シコシコぉっ、シコシコぉ～っ♪」

「んほぉッ、んぁぁッ！んひッ、急に速くしないでよぉ…ッ！うぅ…ッんぶぅ！」

「あぁら、ホントに気持ちよさそうねぇ。皆さん、うちの娘のだらしなぁい顔、見てやってくださぁい♪」

「皆さぁん、見てくださいこの顔。うふふ。おちんぽとおまんこ、アナルを3点責めされたぁ、メスの顔ですよぉ～♪感じすぎちゃって、舌まで出しちゃってますねぇ～♪」

「おほ…ッ、あへぇ…ッ！あぁ…っ、あぁんっ！や、やだぁ…ッ！」

「まだお仕置きの最中なのに、こんなに感じちゃって…。もぉ～っとキツいお仕置きをしなくちゃいけないかしらぁ？」

「あへぇ…ッ、んぁ…ッ！みんな見ないでぇ…っ、見ないでよぉ…っ、んひぃ…ッ！」

「ほら、みぃんな、美保の情けない顔、じぃっくり見てるわよぉ？うふふ。こんなはしたない顔、見られたくないわよねぇ～？」

「んおぉ…ッ、やだ…ッ！ママもうやめてぇ…ッ！うぅ…ッ！」

「たっくさんコメントも来てるわよぉ？なになに？『ドスケベ』だって～♪」

「見ないでぇ、もう見ないでってばぁ…ッ！アタシのドスケベ顔ぉ…ッ、あへ…ッ、んぉぉ…ッ！」

「…でも美保ちゃん、見られて悦んでるの、バレバレよぉ？イヤイヤって言いながら、ちんぽ、こんなにビンッビンに勃起させちゃってぇ♪ほぉら、この勃起ちんぽもぉ、たくさん見てもらおうねぇ～♪」

「んおぉ…ッ！ち、ちんぽもぉっ？！やだぁ…っ！アタシのちんぽ、いっぱい見られちゃうのぉ…っ？あひぃん…ッ！」

「そうよぉ。美保ちゃんのビンビンちんぽ、いっぱい見て見てってしようねぇ～？…さっきから視聴者数もグングン伸びてるし。みぃんな、美保のエッチな姿に釘付けになっちゃってるみたい♪」

「うぅ…ッ！あひぃ…ッ！そんなことぉ…っ、言わないでぇ…っ！んお…ッ、おぉッ！おほぉッ！」

「さっきから、おちんぽビクンビクンしちゃってるわよぉ？そんなに見られるのが気持ちいいのかしらぁ？うふふ」

「あひ…ッ、ひぃんッ！…あぁんッ！もうだめぇ…ッ、おかしく、なるからぁ…ッ！」

「はぁい、シコシコぉ～、くちゅくちゅ～。気持ちいいねぇ、見られながら触られるの、とっても気持ちいいわねぇ～♪」

「うぐぅッ、気持ちよくなんて…ッ、なってないんだからぁ…ッ！んほぉんッ！あへッ、んへぇ…ッ！」

「えぇ～、こんなにビクビクしてるのにぃ。気持ちよくないのぉ？認めちゃえばぁ、もぉっと気持ちよくなれるのになぁ～？美保ちゃん、たくさん気持ちよくなりたくないのぉ？」

「うぅ…、気持ちよく…っ、おほぉッ、なれるぅッ？あぁん…っ！だめだめぇっ、認めないぃ…ッ！」

「そう、みんな待ってるわよ？美保ちゃんが気持ちいいって認めるの。シコシコぉ、シコシコぉ。ね、ほら、言っちゃえっ♪」

「やだぁ…ッ！んおぉッ、見られて気持ちいいなんて言ったらぁ…ッ！アタシ、変態になっちゃうぅ…ッ！」

「いいのよぉ、変態で♪ほら、言えッ、言っちゃえっ！」

「…うぅ…ッ！そんなことぉ…ッ！」

「ほぉら、早く♪みんな、待ってるわよぉ～？」

「…う…、うぅ…ッ！…ぎ、ぎもぢいぃ"ッ！い"ぃよぉ…ッ！もっと、してほじい"よぉ…ッ！」

「うふふ。よぉく出来ました♪」

「くうぅ…ッ！んおおぉ…ッ！」

「お仕置きなのに気持ちいいねぇ♪気持ちいいって認めちゃったら、もっと気持ちよくなったでしょ？うふふ」

「しゅごいぃ…ッ、見られながらお仕置き…ッ、しゅごいぃ…ッ！みんなに見られながらぁ、ママにちんぽコキされてるぅ…ッ！んほぉ…ッ！」

「またおちんぽ大きくなった♪そろそろ出ちゃうかしら？お仕置きなのに、美保ちゃんのちんぽ、白いおしっこおもらししちゃうのかしらぁ？」

「うぅ…ッ！ちんぽコキでアへってる美保も見られちゃったのにぃ…ッ！射精も見られちゃうぅ…ッ！んほ…ぉッ！」

「ほぉら、出す準備始めちゃえっ！メスなのにちんぽから濃厚ザーメンびゅーびゅーするところ、見られちゃえっ！」

「やだぁッ！そんなの…ッ、そんなの恥ずかしすぎるよぉぉ…ッ！あへ…ッ、あひッ、あひぃぃん…ッ！」

「すっごい愛液溢れてきてるわよぉ？ほら、この音。クチュクチュって。みんなに射精見られる妄想して、もっと興奮しちゃったのかしらぁ？」

「聞こえちゃうッ、あぁんッ！そんなに掻き回したらぁっ！くちゅくちゅしてる音ッ、みんなに聞こえちゃうからぁッ！んひぃッ！」

「ヌルヌルの愛液、アナルに塗りたくってぇ…っ、つぽつぽっ、ぬぷぬ

ぷぅ～！あらあら、すっごい音♪」

「んおぉ…ッ？！あぁ…ッ、んほぉおんッ！ナカはぁ…ッ、あぁんッ、だめぇッ！ママの指が…ッ、入ってきてるぅぅ…ッ！あぁんッ！」

「アナルに指入れたらぁ、またおちんぽ固くなったわねぇ。…美保ちゃん、アナルが弱いものねぇ、うふふ。もぉっと虐めてあげましょうねぇ～」

「…おっほぉぉ～ッんッ！ま、ママぁ…ッ！そんなに弄ったらぁ…ッ、んおぉ…ッ！」

「あら？そんなに弄ったらぁ、何かしら？気持ちよくなっちゃう？射精したくなっちゃう？」

「ううぅ…ッ！い、言わないでぇ…ッ！ホントに出そうになるからぁ…ッ！んおぉ…ッ、おぉ…ッ！」

「ほら、アナルとまんこ穿りながらぁっ、ちんぽもシコシコ扱くっ！うふふ♪」

「んぐぅぅ…ッ！らめぇ…ッ！おちんぽ出ちゃうぅぅ…ッ！」

「はぁい、みなさぁん♪お待ちかねの射精タイムですよぉ～？美保ちゃんと一緒にぃ、どっぴゅんしちゃって下さいねぇ～♪」

「ママ何言って…ッ、んおぉ…ッ！そんなにしたらぁ…ッ、出るぅッ、出る出るうぅ～ッ！んほおぉ…ッ！！出したくないッ、出したくないぃ…ッ！」

「ダメよ。出しなさいっ！お仕置きなんだからっ！ほら、手伝ってあげるから。シコシコぉ、シコシコぉ♪」

「お仕置きされてるのにぃ…、射精するとこ見られちゃうぅぅ…ッ！やだぁ…っ、そんなのイヤなのにぃぃ…ッ！！」

「出せっ、出しちゃえっ！美保ちゃんの射精みんなに見せちゃえっ！」

「ううぅ…ッ、出るッ！出る出るぅ…ッ！んおぉ…ッ、おほぉぉッ！！」

「…おっほおぉぉおおぉ〜ッ！！んおお…ッ！…んひぃん…ッ、ひぃぃ…ッ！」

「うふふ。たっくさん出てるわねぇ♪ほら、最後までぴゅっぴゅしちゃおうねぇ〜、シコぉ、シコぉ♪」

「ううぅ…ッ、うッ、んおぉ…ッ！！あへえぇ…っ」

「奥に溜まった精液、ぜぇんぶ出しちゃおうねぇ〜。うふふ。扱くたびにぴゅっ、ぴゅっ、って出てる〜。みなさぁん、見えますかぁ？」

「あひ…ッ、ひぃぃ…ッ！出てる…ッ、アタシ、カメラの前で射精…ッ、しちゃってるよぉ…ッ！おぉ…ッ、んおぉ…ッ！」

「そうよぉ。うふふ。美保ちゃんの射精姿見て、皆さんも一緒に射精してくれたみたいよぉ？」

「やだぁ…っ、もう見ないでよおぉ…っ！うぅ…っ、まだ出るぅ…っ！んおぉ…ッ、おほッ！」

「うふふ。出しちゃえっ、全部出してスッキリしちゃえっ！」

「んほおぉ…ッ、ううぅ…ッ！…はぁ…っ、はぁ…っ」

「あら、全部出せたみたいねぇ〜。ママの指まで精液でベタベタに汚しちゃって。スッキリできたかしら？」

「はぁっ、はぁ…っ。も、もう終わりでいいよね…？はぁっ、はぁっ」

「あら、まだお仕置きは終わりじゃないわよ？」

「そんなぁ…っ、もうイヤだよぉぉ…っ！」

「次のお仕置きは…。美保ちゃんの脇を嗅いじゃおうと思いまぁす♪」

「わ、脇っ？！またぁ…？ママ、いつも嗅ぎたがるし…。アタシの脇の臭い、ホントに好きなのね…」

「そうよぉ。ほらっ、いいから、腕を上げて…っ、その脇をこっちに向け

てごらんなさぁい♪」

「…この格好でいいのぉ？」

「そうよ♪それじゃあ遠慮なく…。すんすんっ、すぅ～っ！」

「あぁんッ、ママってばいきなりがっつきすぎ！こんなところ…っ、くすぐったいっ！」

「すぅ～っ、すんすんっ！すうぅ～、はぁ～っ！」

「もう、すっかり夢中になっちゃってるし…っ。…こんなに必死に嗅がれるなんて、恥ずかしい…っ」

「くっさぁ～い♪美保ってば、脇、くさすぎよぉ～？すぅ～っ、はぁ～っ！」

「…ちょっとぉっ！臭いとか言いながら、アタシの脇から顔、離してないじゃないっ！ママの変態っ！」

「だってぇ。この臭いを嗅ぐためにぃ、わざわざ放課後に配信してるんだからぁ～♪うふふ、学校や部活でかいた汗…っ、脇で熟成されたこの香り…っ、たまらないわぁ～っ、すんすんっ！」

「ん…っ！もうっ、みんなにも聞こえてるんだからぁッ、あんまり臭いとか言わないでよ…っ！」

「くっさ♪くっさぁ～ッ♪」

「も、もうッ！やだってばぁッ！」

「視聴者の皆さんにもぉ、美保のくっさい脇臭、嗅いでもらえないのがすっごく残念ねぇ…。すんっ、こんなにいい匂いなのに…♪」

「…も、もういいでしょ？！終わりにしてぇ…ッ」

「れろぉ～っ、れろれろぉ…っ！」

「ひ、ひゃぁぁッ？！…ちょっとママ、なんでアタシの脇、舐めてるのよぉ…ッ！んひ…ッ！」

「うふ、美味しそうだったからつい。でも汗の染み込んだ脇肉、とっても美味しいわぁ…っ！れろぉんっ、れろっ！」

「んひひッ、あははッ！く、くすぐったい…ッ！」

「んぅ…っ、れろぉ～ッ、れろれろぉ～っ」

「んひゃあぁ…ッ、あぁんッ！」

「あら、急に喘ぎ声なんてあげちゃってぇ。くすぐったいだけなんじゃなかったのぉ？」

「だってぇ…っ、舐め方も厭らしいしぃ、おちんぽも触ってくるからぁ…ッ」

「おちんぽ触られるの気持ちいいでしょ？うふふ、悦んでくれるかと思ったんだけど」

「あぁん…ッ、あぁッ！それに、ママのちんぽ、アタシのアナルに当たってるし…ッ！」

「あら、バレちゃってたのぉ？美保の脇があんまりにもいい臭いだから…♪ママも、興奮しちゃってぇ…」

「ちょ、ちょっとぉっ、喋りながら擦り付けてこないでよぉ…ッ！」

「だって美保ちゃんのアナル…。ママのおちんぽ入れてほしそうにヒクヒクしてるんだもの。…それにぃ、さっき愛液で濡らしておいたおかげで、すぐに入りそうになってるわよぉ？ん…ッ、ほらぁッ！」

「んひゃぁああぁッ？！ママぁっ、先っぽ、入っちゃってるからぁ…ッ、あぁんッ！」

「はぁっ、はぁっ。すんすんっ、れろぉ〜っ。美保のアナル、柔らかいのにすっごく小さいわねぇっ、んっ、んんッ！」

「だめぇ…ッ、動かしちゃ…ぁぁあッ！もうこれ以上入らないからぁ…ッ！」

「アナル、締まってるうぅッ、おッ、おほぉッ！だめぇ…ッ、これ、きちゃうぅ…ッ！！」

「おッ、ほぉおおぉぉッ！！」

「ッんぐぅッ？！んおおぉ…ッ、おぉぉ…ッ！！」

「おお…ッ、おほ…ッ！美保ちゃんに中出しッ！気持ちいぃ…ッ、んおぉ…ッ！」

「ママぁ…ッ、んおッ、もういいでしょ…ッ！ぬ、抜いてよぉ…ッ！
うぅ、アタシまで出ちゃってるからぁぁ…ッ！…ッおぉッ！」

「うふ、…おぉっ、娘のアナルにぃ…っ、ぴゅっぴゅしちゃってるぅぅ…ッ、んほぉ…ッ、ほぉんッ！」

「アタシのナカに…ッ、ママのザーメンいっぱい入ってきてるぅ…ッ！お…ッ、んお…ッ、熱いぃ…ッ！やだぁ…ッ！」

「んはぁ〜ッ、美保の脇の臭い嗅いでたらぁ…ッ、んお…ッ、まだまだ出そうよぉ…ッ！あぁん…ッ！」

「すんすんッ♪…おほぉッ！ほぉら、ぜぇんぶ受け止めなさいッ！うッ、うぅ…ッ！」

「んおぉ…ッ？！まだ、出るのぉ…ッ？！んぐぅ…ッ、もう入らないぃ…ッ、やだぁ…ッ！」

「すんすんッ、すぅ～ッ♪…んおぉッ、おふぅッ！美保ちゃんのも扱いてあげるからぁ…ッ、んッ、美保も全部出しきっちゃいなさい…ッ！んおぉ…ッ！」

「うぐぐぅ…ッ、あひぃ…ッ！？やめてぇ…ッ！」

「美保ったら、ホンットいい匂いねぇッ！すんすんッ！んおぉッ、まだ出るぅ…ッ！んひッ！」

「ううッ、アタシも射精止まらないぃ…ッ！んおぉ…ッ、中出しされながら…ッ、射精しちゃってるぅ…ッ！んほぉぉッ！」

「うふふ。絶頂してるせいで、脇の臭い、更にキツくなってるわよぉ？厭らし～い臭いでムンムンしてる…♪すんすんッ！れろぉ～ッん！」

「うひひッ、イってて敏感なんだからぁ…ッ！やめ…ッ、はひぃんッ！ふひひぃッ！んおぉ…ッ！中出し…ッ、早く終わってぇ…ッ！終わってよぉ…ッ！」

「んはぁ〜ッ、れろぉ〜ッ！おぉ…ッ、おほぉんッ！」

「なんでまだ出るのよぉ…ッ！アタシのアナル…ッ、1番奥までぇッ、ママのザーメンでいっぱい…ッ！んおぉ…ッ、おほぉ…ッ！」

「うふふ。さっき射精したのは美保だけだったもの。溜め込んでた精液、ぜぇんぶ美保のナカにぃ…ッ、出しちゃうんだからぁ…ッ、んほぉ…ッ！」

「んぐぐ…ッ、うひぃ…ッ！！」

「んおぉ…ッ、おほぉ…ッ。…ふぅ…っ、ふぅっ！…やっと全部出たみたいね…♪はぁっ、はぁ…っ。」

「はぁ…っ、はぁっ。出しすぎよ。もう、お尻の中、ヘンな感じするしぃ…っ」

「はぁっ、はぁっ。満足したわ。これで遅刻したお仕置きは終わりにしてあげる♪」

「はぁ…っ。やっと終わりね…。でも今度はアタシが攻めるから。ママばっかりずるいし！ほら、さっさとちんぽこっち向けて♪」

「あらあら、随分やる気になっちゃって。うふふ。いいわよぉ、ママをたっぷり気持ちよくしてね？」

「ふんっ、余裕ぶっちゃって。感じすぎて超恥ずかしい姿、視聴者さんに知られちゃっても知らないんだから！」

「んぶッ、んぶぅッ！んぼおぉぉッ、んぶぶッ、うぶっ！」

「んあぁッ、んおおッ？！なに、これぇ…ッ？！すっごいバキューム…ッ！んおぉ…ッ！美保ったら、いつの間にそんな下品なフェラ…ッ、覚えたのよぉ…ッ！あぁんッ！」

「んぶぅッ、んぶぶぶッ！んぼッ、んぼぉッ！んぼぼッ、んぶぶぅ～ッ！」

「おぉ…ッ、おほおぉ～…ッ！何これぇ…ッ、おちんぽ吸われてるぅ…ッ！んほぉぉ…ッ！こんな下品なフェラの音、みんなに聞かれちゃってるぅぅ…ッ！」

「んぶぶッ！…どう？アタシの吸引。このスーパー吸引で、尿道に残ったザーメン、ぜぇんぶ吸い出してあげるからぁ！…んッ、ずぞぞぞッ、んぶぶぅぅッ！」

「んほおぉぉ…ッ？！あぁぁ～ッ！娘フェラ気持ちよすぎるわよぉぉ～ッ！うぅ、うひぃぃ…ッ！」

「ママ、おっぱい押し付けすぎッ！前が見えないしッ、んぶぶッ、んぼッ、んぼッ！」

「美保のフェラが…ッ、気持ちよしゅぎるからぁ…ッ！んほぉ…ッ、ほぉんッ！娘フェラで感じすぎちゃってるとこ…ッ、みんなに見られちゃってるよぉぉ…ッ！おほぉッ！」

「そうよぉ。余裕ぶってたクセに、娘の口淫にぃ…、呆気なぁく陥落したママのなっさけない姿。みぃ～んなが見てるのよぉ？あははっ」

「見られてるぅ…ッ！娘のフェラに負けてるところ…ッ、たくさん見られてるよぉ…っ！んほおぉぉッ！おほぉ…ッ！」

「そ・れ・にぃ…！この下品なオホ声♪みなさん、ちゃぁんと聞いてますかぁ？普段は大人しい顔した人妻がぁ…、娘にちんぽ咥えられただけでぇ…。こぉんな浅ましい喘ぎ声あげちゃってるところぉ～！」

「やだ…ッ、やだぁ…ッ！んほおぉ…ッ！だめなのにぃ…ッ、こんなエッチなのバレちゃだめなのにぃ…ッ！声止まんないぃ…ッ、んほおぉ～ッ！」

「ほぉら、ちんぽだけじゃなくて…ッ！コッチも攻めてあげる…ッ！」

「んほぉぉぉ…ッ！？美保ッ、そこ穿っちゃだめぇぇ…ッ！！おッ、おッ、おおぉッ！」

「あれぇ？アナルもおまんこもユルユルじゃん。入口に押し当てただけで、指が勝手にぬぷぬぷ入ってく…！ママってばアタシのフェラ、そんなに気に入った？」

「そんなこと…ッ、言わないでよぉ…ッ！んほおぉ…ッ、おほッ！」

「指先をぉ…、かるぅく出し入れっ、出し入れっ。ぬぷ、ぬぷ、ぬぷっ！ママ、これ好きだもんねぇ～？」

「おほぉおぉぉッ！んほッ、んほぉッ！おひぃッ、おひッ！」

「焦れったいねぇ～？鈍くて緩い刺激が何度も何度も襲ってくるの、たまらないよねぇ？あははっ、ママってば感じすぎ！」

「おほぉぉッ、ん…ッ、ほぉおんッ！！あひ…ッ、おッ、おおッ！」

「太ももキュッって締めちゃってるし、つま先立ちになってるよぉ？そんなにこれ、好きなのぉ？」

「んほぉおッ、しゅきぃぃ…ッ！これしゅきぃぃ…ッ！もっとぉ…ッ、もっと欲しいよぉぉ…ッ！！んほおッ、おッ、おおおッ！」

「だらしない顔。そんなにして欲しいなら、一気にイかせてあげるッ！んぶぶッ！高速フェラも食らえッ！んぶぶぅ〜ッ！うぶッ！」

「あひぃぃぃいッ！！おほッ、おッほぉぉお〜ッ！んおッ、あぁッ！あぁぁんッ！」

「ぶぼッ、ぶぼぼッ！んぶぅ～ッ！ぶぼんッ！」

「おッほぉおぉ～んッ！出る出るぅ…ッ！精液出るからぁ…ッ！」

「んぶぅッ！はへッ(だせッ)！はひひゃへぇッ(出しちゃえぇッ)！んぶぶぅ～ッ！ぢゅぶぶッ、ぢゅぶッ！」

「んあぁ…ッ！腰振っちゃうぅ…ッ！気持ちよすぎて腰止まんないよぉ…ッ！おほッ、おおッ！」

「ほらイけぇッ！んぶッ！娘のバキュームフェラでイけぇ…ッ！んぼぉッ、んぼぉおッ、んぶッ、うぶうぅッ！！」

「で、出るからぁ…ッ！娘の口にッ、精液ぶちまけるからぁ…ッ！おほぉッ！出る出る出るぅぅうぅ～ッ！！」

「んぶッ、んぶッ、んぶぅッ！んッ、んッ、んぶッ、ンンッ、ンぶぅッ！！」

「んッ、んぶぶぶぶぶぅぅ〜ッ！！？！」

「おッほぉぉおおぉおぉ〜ッ！！」

「んぶぶッ、うぶッ、んッ、んおぉッ？！」

「出てるうぅ〜ッ！んほおぉ…ッ！おほッ、おッほぉおぉ〜ッ！」

「うぶぶぶぶぅッ！ぼぼべぶぅッ(溺れるぅッ)！べーべぎべぼぼべぶぅッ(精液で溺れるぅッ)！」

「おほぉッ！これしゅごいぃ〜ッ！娘のロマンコに射精するのしゅごいぃ〜ッ！おほぉッ！おほぉんッ！」

「んぶぶッ、うぶぅぅぅ…ッ！」

「ほぉら、美保ちゃんッ！もっと奥までッ、ママのちんぽ咥えてぇッ！んおぉ〜ッ！」

「んぶぅッ、うぶぶッ、んぶうぅぅ〜ッ？！」

「んあぁ〜んッ！これ気持ちよすぎるわぁ…ッ！敏感なところ全部、一気に攻められてるぅ…ッ！もっとぉ…ッ、もっとザーメン吸い出してぇ…ッ！」

「んぐぐぅッ！？んッ、ぢゅるるうぅ〜ッ、ぢゅるるッ！」

「そうよぉッ、全部吸い出しちゃっていいわよぉ〜ッ！ママのぷりっぷりのザーメンッ！いっぱい飲んでいいのよぉ…ッ！！おほッ、おほぉんッ！」

「んぶッ！ごくんごくんッ、んぶぶぅッ！」

「おッ、ほぉぉんッ！フェラチオしゅごいぃ…ッ、しゅごしゅぎるうぅ…ッ！はひぃ…ッ」

「うぶぅッ、んぶッ！ごくんッ！」

「はぁっ、はぁぁんッ！…やっと射精収まったぁ…。おぉ…ッ」

「ごくんッ、ぷはぁッ！！ちょっとぉ、精液の量、多すぎない？」

「ちゃんと飲んでくれたみたいで、ママ嬉しい…。はぁっ、はぁっ」

「…それにぃ、ママのザーメン、苦すぎ…！それに濃厚だし臭いし…ッ！んんッ、喉に貼り付いて取れないよぉ…。すんすんッ、こんな強烈なの飲まされたら…。アタシもちんぽ、ガチガチになってきちゃったぁ…」

「美保ちゃん…。ママも、またおまんこ切なくなってきちゃったぁ…っ♪」

「はいはい、次はちんぽハメてあげるから。大人しくうつ伏せになってねぇ～？」

「…は、はひぃ…♪」

「完全にアタシにメロメロになっちゃってる♪もう、アタシのちんぽしか見てないみたいだし」

「早くぅ…っ、早くくださぁい…っ！ちんぽ…、ちんぽ欲しいぃ…っ！」

「みなさぁん、これが人妻の交尾ねだりですよぉ～？ちんぽにキますよねぇ…？これから皆さんの分も、アタシがこのケツにぃ…、ガンガンぶち込むので、見ててくださぁい♪」

「その物欲しげな顔、カメラにバッチリ写っちゃってるよ？画面の前のみんながシコり始めてるんじゃないのかなぁ？」

「や、やだぁ…ッ、私の顔…ッ、オカズにしちゃだめぇ…ッ！あぁ…ッ！」

「ママのエッチな姿見ながらぁ…、たくさんのちんぽがギンッギンになってるんだよぉ？ママのココに中出ししたくて、みんなのちんぽが精子作り始めてるんだよ？」

「あひ…ッ、あひぃ…ッ！んほぉ…ッ、おほぉ…ッ！」

「まだマンコの入口に、ちんぽの先端、コスってるだけなのに。言葉責めだけで、身体ビクビクさせちゃってさぁ…」

「ちんぽ…ッ、娘ちんぽ…、欲しいぃ…ッ！もうッ、焦らさないでよぉ…ッ！」

「ええ～ッ。ママってば、そんなこと言って、恥ずかしくないのぉ～？みぃんなに聞かれてるよ？」

「う…ッ、ううぅ…ッ！」

「マンコに娘のちんぽ欲しがって、腰振ってるところも、ぜぇんぶ見られてるよぉ？恥ずかしいねぇ♪」

「ううぅ…ッ！恥ずかしいところ…ッ、見られちゃってるのにぃ…ッ！欲しい…ッ、ちんぽ欲しいのぉぉッ！」

「ホンット、ママって変態だね♪」

「はぁい。もう、ちんぽ入っちゃったぁ～♪うひひッ！ママも大したことないんじゃなぁい？」

「あ…ッ、あぁあぁ～んッ！」

「気持ちよさそうな声出しちゃってさぁ～。そんなにアタシのちんぽ、欲しかったのぉ～？」

「あひぃ…ッ、んほ…ぉッ！あぁんッ！欲しかったぁあぁッ！ちんぽ欲しかったのぉおッ！」

「アタシのちんぽ、どう？大きくて逞しいでしょ？」

「んおぉおッ、おほぉ～んッ！ちんぽ大きいよぉおッ！気持ちいぃ…ッ、いいよぉおッ！」

「ガニ股になって、腰浮かせてぇ。ちんぽ入れられてアンアン喘いじゃっ

てさぁ。ホンット、ママって淫乱♪」

「だってぇぇ…ッ！美保のおちんぽが…ッ、気持ちいいんだもぉんッ！んおぉぉッ！」

「あはは！それじゃあ、アタシはアタシの好きに動くからッ！ママはせいぜい、娘にオナホにされてればぁ～？」

「んほぉおおッ！おッ、おッ！オナホッ、オナホにされてるううッ！私のおまんこッ、好きに使われちゃってるうぅッ！」

「ふんッ、ふんッ！んおぉッ、おほぉぉッ！」

「んほぉおおッ！ほぉお～んッ！」

「あれ、んおぉ…ッ？！出てる…ッ、さっきの精液、出てきちゃってるぅ…ッ？！」

「あら、美保ちゃんったら、私が出したザーメン、噴き出してきちゃったのぉ～？ブピュブピュッ！って下品な音、ここまで聞こえてくるわよぉ？」

「くうぅッ！アナルからッ、ママのザーメンッ、出ちゃってるうぅッ！止まってぇッ、止まってよぉ…ッ！」

「うふふ。ママの濃厚ザーメン♪たぁっぷり出してあげたもの。そう簡単に止まらないわよぉ？」

「ううぅ…ッ、あひぃ…ッんッ！ううぅッ、だめぇッ！こんなところッ、みんなに見られたくないぃ…ッ！」

「んおぉッ？！美保ちゃん！恥ずかしいからって、腰動かさないでよぉッ！イくぅッ、イっちゃうからぁぁあッ！」

「こうなったらッ、ママも道連れよぉッ！ほらッ、イけッ！オナホがちんぽに逆らうからッ、こうなるのよッ！んおぉッ！おッ！」

「んほぉおおぉッ！イくぅうぅッ！そんなに激しくされたらぁッ！んひッ、ひいぃぃんッ！」

「イけぇッ！んおぉッ、おほぉおんッ！おッ、おッ、おおッ！」

「んほぉおおぉおぉ〜ッ！！！」

「んお"おッ！？お"ぉおぉ〜ッ！！」

「おほぉ…ッ、んほぉお…ッ！」

「うぐぐッ、おッ、あひいぃッ！」

「あへぇぇ…ッ！んほぉおおッ！」

「はぁッ、はぁッ！ううッ、アタシまでイっちゃったじゃない…ッ！」

「おまんこ…ッ、熱いいぃ…ッ！はぁッ、はぁぁんッ！」

「くうぅッ、ママってばまだイってるのぉ…ッ？！んおぉッ！」

「ザーメンがッ、ナカで暴れて…ッ！あひぃいんッ！そこはだめなのぉおッ！」

「や、やるじゃない…ッ！んおぉッ、おほぉおぉんッ！出てる…ッ、またザーメン出ちゃってるぅ…ッ！」

「も、もうだめぇぇ…ッ！ザーメンがぁッ、奥まで押し込まれてるぅ…ッ！んほぉおおッ！」

「ママのナカッ、気持ちよすぎ…ッ！くううぅッ、止まんないぃッ！射精止まんないいぃッ！」

「んぎいぃいぃ～ッ！あひぃぃんッ！」

「おほぉおぉ～ッ！まだまだ出るッ！おほぉおぉッ！」

「あひぃぃ…ッ！もういらないぃッ！ザーメンいらないぃッ！おかしくなるうぅ…ッ！んほぉッ、おほぉおお～ッ！」

「オナホ相手に加減なんかするわけッ、ないでしょッ！おらッ！文句言わずにッ、受け止めてよッ！んぐッ！おぼおぉッ！」

「おおッ、おほぉおおお〜ッんッ！」

「はぁッ、はぁッ！すっごい出た…♪」

「もう、いくらなんでも出しすぎよぉ…♪ママのナカ、たぷたぷになっちゃったぁ…」

「ママだって、中出しされながら何回もイってたじゃん。ママのちんぽもヌルヌルになってるし♪」

「うるさいッ！」

「メスイキしながらぁ、ちんぽから射精もしちゃったんだねぇ〜？あははっ」

「も、もうッ！仕方ないでしょッ！」

「ふぅ…ッ、ママってホントに最高の肉便器ね…♪」

「はぁっ、はぁ…っ！私だって…ッ、犯されてばっかりじゃ…ッ、ないんだからぁ…ッ！」

「へぇ？やけに自信満々じゃない！やれるもんならやってみてよッ！」

「それならッ、今度は私の番よぉ～？」

「あれぇ？ママの非力な力じゃあ、逆にアタシにハメられちゃうんじゃなぁい？…ッんおッ！」

「うぐぐ…ッ！美保、あんた力強くなってない…っ？！」

「当然。アタシだって、毎日部活で鍛えてるんだから。主婦してるママに、いつまでも負けてる訳にはいかないのよッ！」

「や、やるわねぇ…ッ！んぐぅッ、んほぉおぉ〜ッ！」

「はぁい、ママの負けぇ♪ハメようとしてハメられちゃうなんて、情けないよぉ〜？あははっ」

「…んおぉ…ッ！…くっ、まだッ！まだよぉッ！」

「えぇ〜っ、相変わらず諦めが悪いなあ…。こんなの誰が見たってママの負けに決まってるじゃん。ね？視聴者のみんなもそう思うよねぇ？」

「ふんっ、こういうのは先にイッた方が負けなのよッ！はぁっ、はぁんッ！ほらッ、ママのおまんことこの腰遣いに耐えられるかしらぁ？」

「んほぉッ？！ちょっ、急に腰動かさないでぇぇ…ッ！あひぃッ！」

「うふふ。ぼぅっとしてたらぁ、んッ、美保だけがイっちゃうよぉ〜？そんなの恥ずかしいわよねぇ〜？」

「くうぅ…ッ！調子に乗っちゃってぇ…ッ！見てなさいよぉ…ッ！！」

「ほぉら、私をイかせてみなさいよぉ！ふんッ、ふぅッ、ふぅッ！」

「あひぃッ！おほッ、おほぉぉッ！ママのおまんこ…ッ、締まり良すぎるぅ…ッ！アタシのちんぽもってかれる…ッ、搾り取られちゃうぅ…ッ！」

「ちんぽ入れてる方が有利な勝負なのにぃ～♪美保ったらまだまだねぇ～！ほら、負けちゃえッ！ママのまんこに負けちゃえッ！」

「やだやだやだぁ…ッ！負けないぃッ！こんなのでイくわけないぃッ！んおぉッ、おほッ！」

「言うじゃないのぉ。でもぉ、それにしてはぁ…、ちんぽ震わせちゃって今にもイきそうになってなぁい？」

「そんなこと…ッ、ないしぃッ！うぐぐッ！」

「そうかしらねぇ？そう言う割には私を押し返す力も弱くなってきてるわよぉ～？もうギブアップしちゃうのかしらぁ？」

「ふんッ！ママの方こそ、アタシのちんぽ入れられて、自分のちんぽまでギンギンに勃起させてるじゃん！んッ、んあぁッ！」

「こ、これは別に…ッ！」

「ママのちんぽ、ビクビク跳ねちゃってもうイキそうなんじゃないのぉ～？おまんこもきゅうきゅう収縮してるしさぁ～♪」

「ううぅ…ッ！…ほらッ、さっさとイきなさいよぉッ！あぁんッ、あぁッ！おほぉッ！」

「ちょッ、急に激しく動かないでよおぉッ！おほッ、んほぉぉんッ！ママのナカッ、あっついよぉッ！んほぉぉんッ！」

「ママのおまんこに搾り取られちゃえッ！んほぉぉッ！」

「イってたまるかぁ～ッ！ママの負けッ！みんなにッ、娘にハメられて負けた姿ッ、みんなに見てもらおうねッ！んおッ、んんッ！」

「美保ちゃんこそッ！ちんぽハメてるくせにおまんこに屈服しちゃった姿、見られちゃえッ！んおぉッ、おほッ！」

「だめだめぇ…ッ！イくッ、イくからぁ…ッ！！くうぅッ、絶対にイかせてやるぅッ、ううぅッ、んほぉッ、んぐぅッ！」

「おほぉぉ～ッん！おほッ、おひぃいぃ～ッ！！」

「くううぅ～ッ、んほおぉッ！おほッ、ほおぉんッ！！」

「おひいぃ…ッ、ひゃあぁんッ！」

「んおおぉッ、おッ、ほぉおおぉ〜ッ！」

「んほぉッ、おッ！美保の身体にぃ…ッ、精液ぶちまけちゃってるぅ…ッ！おほおぉッ！」

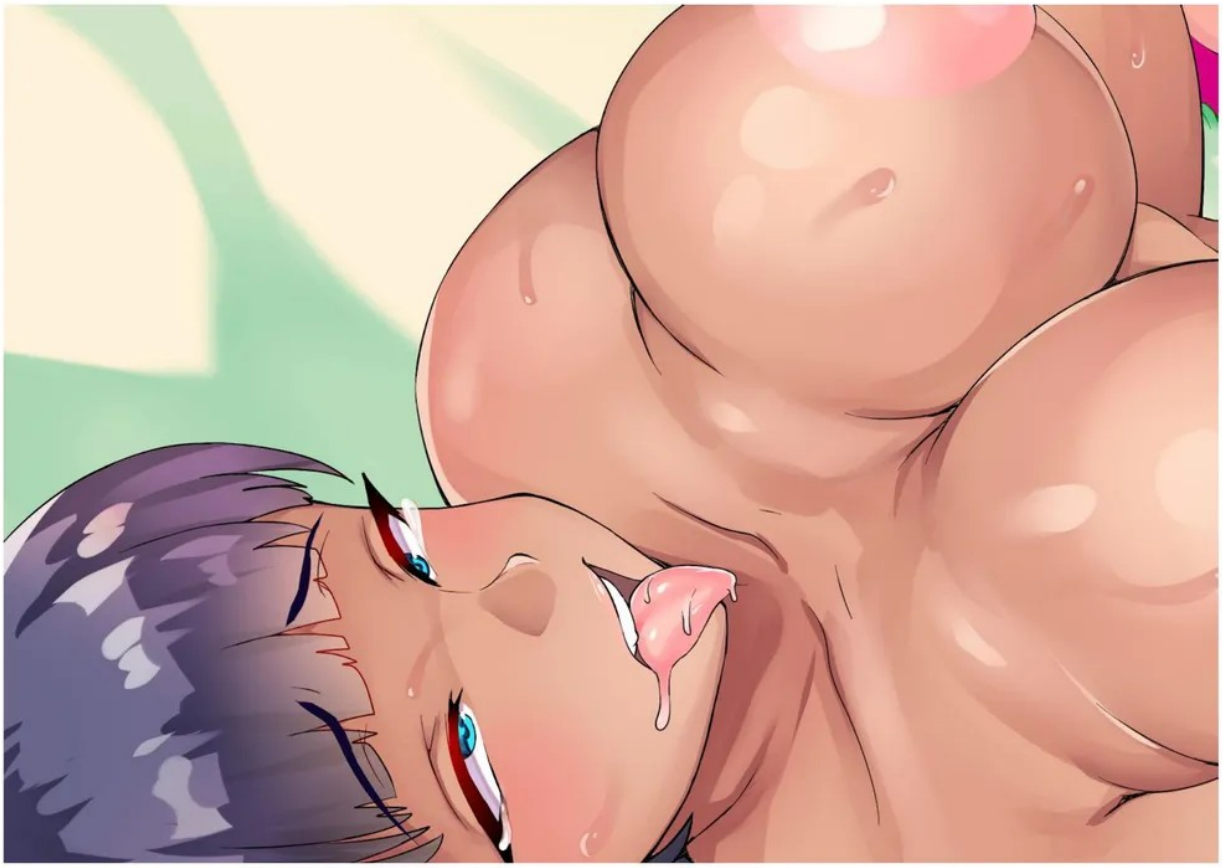
「んおぉッ、中出し気持ちよすぎ…ッ！搾り取られてるのわかる…ッ、ううぅッ！」

「んひぃ…ッ、はぁっ、はぁっ！おぉ…ッ、んほおぉ…ッ！」

「ふひぃ…ッ、んおぉ…ッ！おほぉ…ッ！はぁっ、はぁ…っ」

「うぅ、いっぱい出しちゃった…っ」

「アタシも…っ。はぁっ、はぁっ」



「ひ、引き分けでいいわよねぇ…？」

「ええ～？アタシの方が遅くなかったぁ？ママがイってまんこ締めるからこっちもイっちゃったのよ」

「えぇ～、それを言うならぁ。美保があっついザーメン中出ししてきたせいで、絶頂した気がしてきたわよぉ？」

「ふんッ、まあいいよ。次はもっと気持ちよくしてあげるから！ほら、ママ、脚拡げて」

「んッ、んおぉ…ッ！？」

「おほおぉッ？！おッ、おおッ！いきなり入れられたらぁ…ッ、あぁッ！」

「イったばっかだから…ッ、敏感まんこには気持ちよすぎちゃうかなぁ…ッ？うぐッ、狭い…ッ！んおぉッ！」

「うぐぅッ、ちんぽ入ってくるうぅッ！」

「食らえッ！娘のちんぽにハメられて感じちゃえッ！んッ、んんッ、んおぉッ！」

「おほッ、おほおぉッ！くうぅぅ〜ッ！」

「スンスンッ！あれぇ？ちょっとぉ、ママの脇、くっさ〜っ！」

「え…ッ？！ちょっと、何勝手に脇の臭い嗅いで…ッ！それに臭いなんて…、す、するわけないでしょっ？！」

「ええ〜？ママの脇、すっごく臭いよぉ？すんすんっ、すぅぅ〜っ！ゲホッゲホッ！…噎せちゃうくらいくっさぁ〜い♪」

「私が臭いだなんて、そ、そんなことないのよ、皆さんっ！信じてくださいぃ！」

「それじゃあ、この鼻を突くような酸っぱい臭いはなあに？吸い込むだけで脳が痺れちゃうぐらい、臭いんだけどぉ？」

「あぁん…ッ、そ、そんな風に言わないでよぉ…ッ！」

「ママはアタシと違って部活してたわけでもないしぃ。なにか運動をしてるわけでもないわよねぇ？それなのに、脇がこぉんなに汗臭いのはぁ、どうしてかなぁ～？」

「こ、これはッ、今までの美保ちゃんとのセックスのせいでッ、汗をかいて！それで臭くなったのよっ！きっとそうよっ！」

「ん～？それにしては濃厚すぎる臭いなんだよねぇ～。脇の肉にこびり付いてるっていうか、染み付いてるっていうかぁ…」

「ううぅ…ッ！」

「すんすんっ！…うわ、くっさ！これたまんない…ッ！すんすんすんッ、すぅ～ッ！」

「やだ…ッ、そんなに必死に嗅がないでぇ…ッ！ひゃあぁッ！」

「すんすんッ！鼻が勝手に嗅いじゃう！くっさッ、くさすぎッ！すんすんッ！」

「あへぇぇ…ッ、ちんぽおっきくなったぁ…ッ！美保ちゃん、ママの脇で興奮しすぎよぉ、…ッ！おほぉッ！」

「ほぉら、このくっさい臭いはなあに？早く白状しちゃいなよ〜。すんすんッ！」

「な、何にもない…ッ、わよぉぉ…ッ！んひぃッ！」

「言わないとぉ…、このままアタシのちんぽ、ずぅっと動かしてあげないよ？」

「やだッ、やだぁ…ッ！ちんぽ欲しいッ！ピストン欲しいぃ…ッ！」

「欲しいよねぇ？それじゃあ、なんて言うのかなぁ？ほら、ほらっ！」

「う…ッ、ううぅ…ッ！」

「言わないと、気持ちよくなれないよぉ？ちんぽパンパンってしてもらえないよぉ？淫乱おまんこ切ないねぇ、ちんぽハメられたいねぇ…♪」

「ううぅ…ッ！うぅ…ッ！私…ッ！私はぁ…ッ！美保が帰ってくる前に、1人でぇ…ッ、オナニーしてましたぁ…ッ！」

「あははっ！やっぱり！学校から帰ってきたとき、リビングがすっごいイカ臭かったんだよねぇ～♪」

「うぅ、ちゃんと言ったんだからぁ…ッ！動かしてぇ…ッ！娘ちんぽでいっぱいママをハメてよぉぉ…ッ！！」

「いいよぉ。ほらッ！んッ、んんッ！すぐにイくぐらい激しいの、してあげるから…ッ！おッ、んおぉッ！」

「おッほぉおぉぉ～ッ！おほッ！きたぁ…ッ！高速ピストンきたぁぁッ！巨チンでぇ…ッ、ママの奥に何回もおもたいのッ、きてるうぅ…ッ！」

「イけッ！んおッ、オナニー狂いの変態め！イけッ！娘のちんぽハメられてッ、派手にイっちゃえぇッ！」

「んひッ、んひぃいぃぃい〜ッ！！？！」

「おッ、おぉッ！んおぉぉ…ッ！んひッ、ひぃッ！！」

「んおぉ…ッ、おおッ！んひぃぃ〜ッ！」

「おほぉッ！おッ、おおッ！」

「ぎもぢいぃ…ッ、い"いよぉ〜ッ！お"ぉぉッ、おぼおぉッ！」

「あははっ！ママってば、完ッ全にアヘ顔！中出しされてぇ、おかしくなっちゃったぁ～？」

「あへ…ッ、はひぃぃ…ッ！」

「この格好もぉ、放尿中の雌犬みたいだもんねぇ～？片脚上げてぇ、ちんぽ丸見えにしてさぁ～。ほら、ワンワンって言ってみてよ！」

「んんえぇッ！そんな恥ずかしいこと言えるわけない…ッ！んんッ！」

「これだけ情けない格好しておいてぇ。今更恥ずかしいなんて言われてもねぇ～！ワンワン鳴くぐらいできるでしょ？ほぉら、言えッ！おらッ、おらッ！」

「…うぅ…ッ！んおぉッ、おッ！…わんっ、わんわんッ！」

「そう、カメラに向かって言うのよッ！ほらッ、突いてあげるからッ！」

「ワンワンッ、ワンッ！くうぅんッ！」

「皆さぁん！これが人妻のぉ、発情犬のモノマネですよぉ～。あはは！ママってば、ちんぽハメられながら犬のモノマネなんて情けなぁい！」

「ワンッ、ワンワンッ！くうぅッ、んほおぉッ！」

「んおッ、みんなに見られてるって思うと、興奮してきちゃったかなぁッ？また、まんこの締めつけキツくなってるよ？」

「くうぅ～んッ！ワンッ！ワゥンッ！」

「腰動いてるし。ほらッ、敏感まんこッ！アタシのちんぽで突かれてッ、感じろッ！おッ、んおッ！」

「くううぅん…ッ！んおおッ、んほおぉ～んッ！！」

「…あら、またおもらししちゃったねぇ♪白いおしっこ、どぴゅどぴゅ出てるよぉ〜？」

「や、やだぁ…ッ！んおぉッ！止まんないぃ…ッ、白いおしっこ、止まんないよぉ…ッ！」

「ママ。アヘ顔おもらし、見られちゃってるよ？恥ずかしいねぇ？あはは！」

「くうぅ〜んッ！おほッ、おほおぉんッ！おほぉぉッ！」

「あぁら。すっかりアタシのちんぽに堕ちちゃったかなぁ〜？精液でいっぱいのまんこ、突かれてアヘっちゃって！」

「おちんぽ…ッ、ちんぽぉ…ッ！おほぉ…ッ！」

「さっき連続で射精したくせに、まだ入れて欲しいの？」

「おッ、おほぉ…ッ！欲しいぃ…ッ！おちんぽぉ…ッ、はぁっ、はぁ…っ！」

「まだアタシのちんぽ、欲しいんだ？ホンット、ママって変態だね」

「ちんぽ…ッ、美保のちんぽ、強すぎるよぉ…ッ！おッ、おおッ！」

「こんどは違う体位で入れてあげるから。ほらッ、んおッ、おッ！これッ、奥まで入るッ！」

「んひいぃぃ～ッ！んおッ、おぉッ！おほぉッ！おへぇ…ッ！」

「さっきより深いッ！ううぅ…ッ、おッ、おッ、おッ！食らえッ！膣奥でガチガチになったちんぽ、食らえッ！」

「おひぃぃ…ッ！美保ちゃんしゅごいぃ…ッ！ママおかしくなるぅ…ッ！みんな見てるのにぃ…ッ！カメラの前でアへ顔晒しちゃうううぅ…ッ！あへッ、あへぇぇ…ッ！」

「ほらッ！皆さんに負けって教えてあげなよ！娘ちんぽに負けたって！おまんこされてメス堕ちしちゃったってさぁ！おッ、おおッ！」

「んおぉ〜ッ！負けッ！私の負けえぇえッ！皆さんッ、私、麻美はぁ…ッ！娘のちんぽでイかされるのが好きなぁ…ッ、淫乱女ですぅぅッ！んおぉッ、おほぉッ！」

「あはは！情けなぁい！でもちゃんと言えたからッ、もっとハメてあげるッ！んおッ、おお〜ッ！」

「おほぉッ、ほぉぉ〜んッ！！イクッ、イっちゃうからぁぁッ！ううッ、他の肉棒なんていらないぃ…ッ！ママには、美保ちゃんのちんぽだけぇ…ッ！んほおぉッ！」

「はぁっ、はぁッ！うぅ…ッ！」

「美保ってば、ママを抱えながらピストンできるなんてッ！んおぉッ！底なしの体力になったのね…ッ！ママ嬉しいわッ！」

「はぁッ、はぁぁッ！これぐらい当然よッ！…それよりママッ、さっきからずっと甘イキしてるでしょッ！おまんこきゅうきゅう締めつけてきちゃってさぁ！んおッ！」

「んおッ、おほぉッ！あら、バレちゃってたぁ～？うふふ、だって美保ちゃんのちんぽ、気持ちいいんだものおッ！」

「うぅッ！だからってッ！遠慮なしに体重かけないでよッ！まったくッ！ふんッ、ううッ！」

「だってぇ…っ！美保のちんぽっ！ママの1番奥をッ、ガンガン突いてきててぇ！」

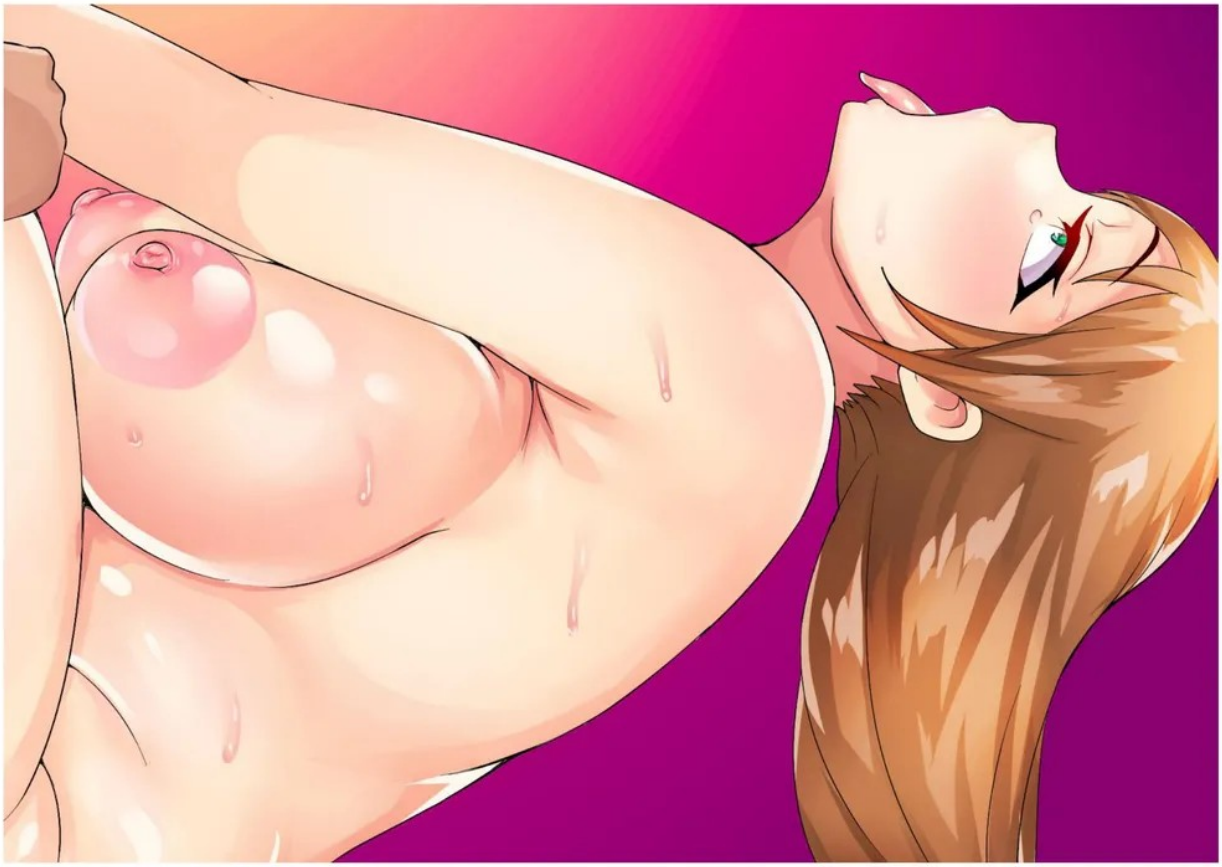
「はぁッ、はぁッ！そんなに気持ちいいならッ！もっと突いてあげるわよッ！ほらッ！んッ、んおぉッ！」

「お"ぉッ？！う"うぅッ！うぐぅッ！」

「こうなったらッ！徹底的にッ、ハメ倒してあげるッ！んぐッ、んおぉッ！覚悟してなさいッ！おぉッ！」

「お"おッ！んお"ッ！言うじゃないのぉッ！どれだけ気持ちよくさせてくれるのかッ、楽しみねぇッ！んおぉッ！」

「ふぅッ、ふうぅ～ッ！ママッ、ちょっとナカ締めすぎッ！んぐうぅッ、ふぅッ、はぁッ！食らえッ、食らえぇッ！」



「んお"おぉぉッ？！お"ッ、あへぇ…ッ、んへえぇ…ッ！」

「んお"ッ？！お"ぼおぉぉッ！！ママッ、またイッちゃってるのッ？！んぐッ、うぐぐぅッ！」

「あへ…ぇッ！んお"ぉ…ッんッ！」

「そんなに締められたらぁ…ッ、イくぅッ！アタシもイっちゃうぅぅッ！んほおぉッ！」

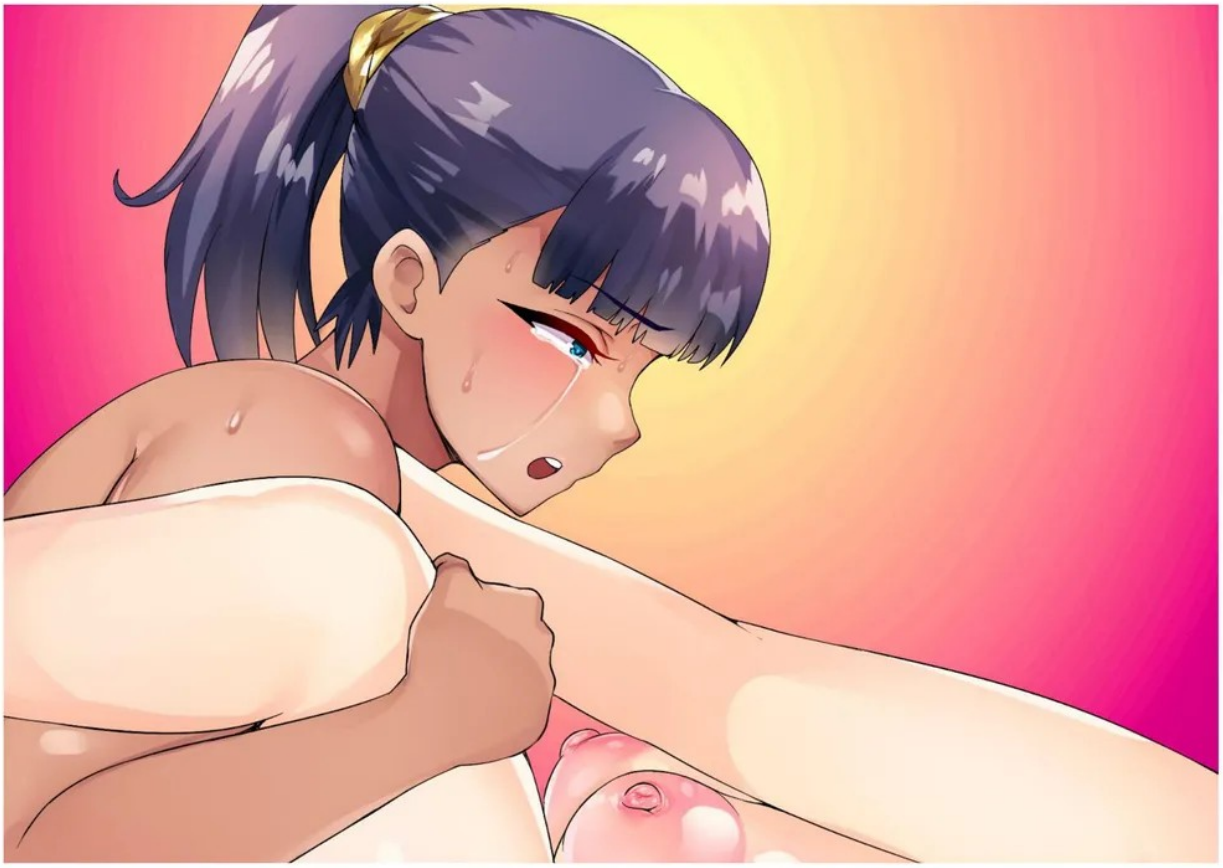
「うぐうぅッ！あへ…ッ、んひぃいぃ…ッ！」

「お"おッ、お"ぼぉおッ？！うぐうぅッ、出てる…ッ、ママのナカにいっぱい出てるうぅぅ…ッ！」

「おッ、ぼぉおッ？！うぶうぅ…ッ！」

「おッ、お"おぉッ！んお"ッ！」

「も、もう精液入らない"よぉお…ッ！う"うぅッ、んぼぉおッ！」



「んお"ッ、んぎいぃぃッ！！んひッ、ひぃぃんッ！」

「う"ぶううぅ…ッ！」

「んお"ぉぉッ！はぁッ、はぁッ！」

「あひッ、うひいぃぃ…ッ！んお"ぉッ！」

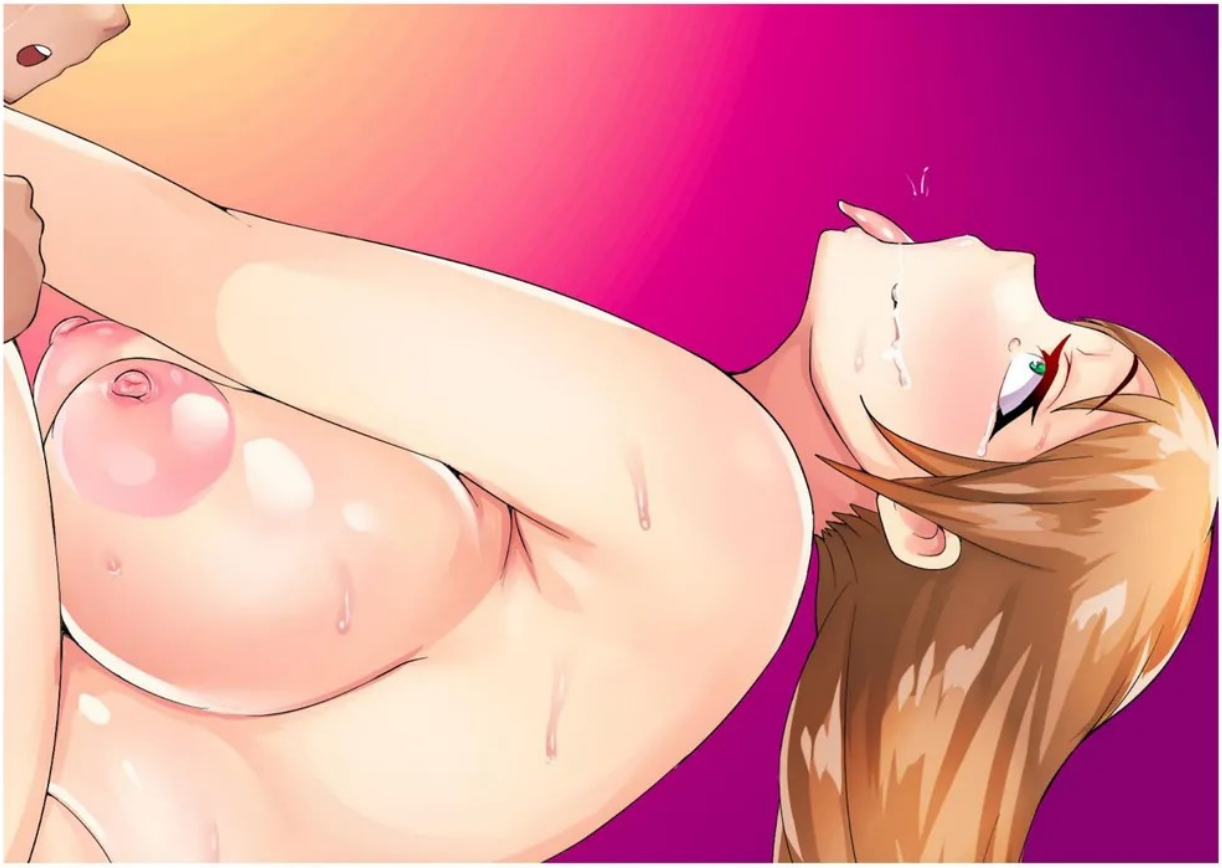
「気持ちよすぎて…ッ、わけわがんないよぉ"…ッ！！う"うぅッ！」

「あ…っ、あぁぁ…っ！はひぃ…っ！」

「も、もうだめ…ッ！腕が…ッ、痺れてぎだぁ…ッ！うぅ…ッ、でもぉ…ッ、腰の動き…ッ、止めらんないよぉ"…ッ！」

「あぁ…っ、あひぃぃ…ッ！んおぉッ！」

「んぐッ？！んほぉッ、お"おぉ〜ッ！！またイってる…ッ、イってるよぉお…ッ！」



「あひ…ッ、あひぃぃん…ッ！」

「んおぉ…ッ！おほ…ぉんッ！」

「も、もうだめ…っ。う"うぅ…ッ！」

「ナカはずっと収縮しっぱなしだし、声も枯れてきてるしさぁ…ッ。ママ、もうイキ狂って、おかしくなってるんじゃない…ッ？」

「あ…、あひ…ッ！美保だって…ッ！ママのナカから…、溢れるぐらいに…ッ！中出ししてるじゃないのぉ…ッ！」

「だって、ママのナカッ！肉厚で締めつけがすごいんだもんッ！そりゃこれぐらい…、出るわよぉ…ッ！」

「でも、もうムリぃ…っ。締めつけるための気力もない…っ、みたい…っ」

「ううぅ…ッ、はぁッ、はぁぁッ！」

「あ、あひぃぃ…ッ！」

「ふぅッ、ふうぅ〜ッ！も、もう出ない…」

「お…ッ、おほぉ…っ！」

「はぁっ、はぁ…ッ！さすがにヘトヘトぉ…っ！」

「はぁん…っ、はひぃ…ッ！ママもぉ…、もう、立てない…わ…っ」

「はぁッ、はぁ〜ッ！ママもアタシもッ、もう何回イったかわからないね…ッ！」

「ホントね…。おまんこは痺れてるし、ちんぽも空っぽだし…。もうクタクタよ…っ」

「はぁっ、今日の配信は終わり…かな…？はぁっ、もう動けないし…っ」

「…はぁっ、ま、待って。このまま終わったら私が搾られたままじゃない。そんなの…、許さないっ」

「ちょっとママ？」

「はぁい、みなさぁん！何か次のプレイの提案はないかしら？私が美保ちゃんをイかせるためにぃ、良さそうなものを募集するわ♪」

「アタシはもう疲れたんだって！部活帰りだし…っ、もう限界だよぉ…ッ」

「いっぱいコメント来てるわよぉ〜、なになに？『ガニ股フェラ』？いいわね、やってやろうじゃないの」

「ちょっとママ！なんでそんなにやる気になってるのよぉ…ッ」

「ほら、美保ちゃん。さっさと立ってちんぽこっちに寄越しなさい。うふふ、搾り取ってあげる」

「負けず嫌いなママはこうなったら聞かないんだった…。ううぅ、もうムリだよぉ…っ」

「はぁっ、はぁ…ッ！ママ…、フェラはいいけどぉ…ッ、お手柔らかにしてよね…ッ。…んッ、んほおぉぉッ？！！」

「んぶぶぶぅ〜ッ！んぢゅるるッ！んぼッ、んぼぉッ！」

「んッ、ほおぉぉ…ッ？！おっほぉッ！」

「んぢゅるるぅッ！んぶっ、うぶうぅッ！」

「おぉ…ッ、おほぉッ！…ママ、待ってッ、だめ…ッ、激しすぎるぅ…ッ！こんなのすぐイくからぁ…ッ！」

「こんなのでへこたれないのッ！んぶッ、んぶぅッ！こんなんじゃママの肉便器は務まらないわよ？んぶぶぅッ！うぶぅッ！」

「おッほぉぉ〜ッ！尿道に残ったザーメン、全部吸われてく…ッ！おほぉおッ！たまんないぃッ、これたまんないよぉおぉ…ッ！おほおぉんッ！」

「皆さんもぉ、私のガニ股とフェラ顔見て、シコシコしてください
ねぇ〜？私の動きに合わせてぇ…。いきますよぉ〜？んぶッ、んぶぶッ！
んぶッ！んぶぶぅ〜ッ！」

「んほぉッ、おほッ、ほぉッ！ママもちんぽガッチガチだし…。お
ほぉぉッ！んほッ、あぁぁんッ！」

「はぁぁん…ッ！美保のちんぽ、最高に美味しいわぁ…ッ！雌特有の卑猥
なフェロモン臭と…、尿道に残った精液の生臭い香り…。両方が混ざった
エグい臭いが鼻を抜けてく…。最高よぉ…っ」

「おほぉッ！ちんぽの臭い嗅ぎながら勃起してるなんて、ホンット変
態ッ！おほぉぉッ！そんなにちん嗅ぎ好きなのぉッ？おほぉぉッ！」

「好きッ、ちんぽ嗅ぐの好きぃ…ッ！すんすんッ！すぅ〜ッ、はぁぁ〜ッ
ん！」

「くうぅ、鼻息が…ッ！おおッ！ママッ、もっと奥で咥えてぇッ！う
うッ、んおぉッ！」

「んぶッ、んぶぶぶぅ～ッ！？うぶッ、うぶぅぅ～ッ！」

「激し…ッ！ううぅッ！んおぉッ、おほぉぉッ！もしかして、ママッ！食道まで咥えてる…ッ？！んおぉッ！」

「うぶぶぅッ、うぶッ！んぶッ、んぶッ、んぶぶッ！」

「んおおッ！アタシのちんぽ、大きいから苦しいでしょ？あははっ！でもぉ、ママのちんぽ、更に勃起しちゃってるよ？」

「んぶッ、んぶぶぅッ！！」

「フェラでイキそうになってるなんて、ホンット変態！んぐッ、そんなにイイならッ、もっと奥まで咥えてみてよッ！」

「うぶッ、うぶぶぶぶぶぅぅう～ッ！？！」

「苦しい？気持ちいい？ママの大好きなちんぽ。口いっぱいに咥えられて嬉しい？」

「んぢゅるるるぅ～ッ、んぶッ、んぶぅぅッ！」

「んおッ！さっきまでママのナカにいたちんぽだよぉ。綺麗に掃除するんだよ」

「は、はひぃ…ッ！んぶッ、うぶぶッ！」

「んおぉッ、おほぉぉッ！ママッ、上手くなってないッ？！んおぉッ、おほぉッ！」

「うぶぶぶッ、ぢゅッ、ぢゅるるる〜ッ！れろれろれろぉッ！」

「だめッ、舌が裏筋舐めまわしてるうぅ…ッ！速すぎッ、舌の動きやばいぃ…ッ！！」

「れろれろぉ〜ッ！んぢゅうぅ〜ッ！うぶぶぶッ！んあぁぁんッ！」

「おらッ、雌豚ッ！みんなにイラマ見られてぇ、感じちゃってるのかなぁ？脚はどんどん開いてきてるしッ！本気汁も垂れ流しじゃん！」

「んぶぶッ、うぶぶぅ〜ッ！」

「喉の奥突く度、ビクビクさせちゃってさぁ！食らえッ！ガチガチちんぽのピストン食らえッ！んおッ、おおッ！」

「んんんんぶうぅぅうぅ〜ッ？！！」

「んおぉぉッ？！おおッ、おほぉッ！…ママってば1人でイッちゃったのぉ〜？！」

「んんんッ、んぐうぅッ、んぢゅうぅッ！」

「く、咥えながら喘ぐなぁ…ッ！うぐぐッ、アタシもイキそうになるうぅ…ッ！おおぉッ？！」

「んんんッ、んぶぅ〜ッ！！」

「出るッ、出る出るぅッ！ママの口に出しちゃうッ！濃厚ザーメン射精くるうぅう〜ッ！！んおぉッ、おほおぉぉぉッ！」

「ぢゅるるるるる〜ッ！んぢゅッ、んぶぶぶッ、れろれろぉ〜ッ！！」

「もっと奥まで咥えてぇッ！んおぉッ、出すからッ！喉に貼り付く濃厚ザーメンッ、ママの口に出すからぁッ！！」

「んぎいぃぃいぃい〜ッ！！んおぉッ、おッほぉぉぉ〜ッ！！」

「んぐッ、んぶぶぶぶぶぅぅぅ〜ッ！？！」

「んぎッ、んぎいいぃッ！まだ出るッ、出るからぁぁ〜ッ！！んおぉッ、おぉッ！」

「うぶぶぶぅぅ〜ッ、んんんんんッ！！」

「んおぉッ、おぉ…ッ！！」

「ぢゅるるるぅんッ！ぢゅるるぅ〜ッ！！」

「うぐうぅッ！奥のザーメンも吸い出されて…ッ？！んぼおぉッ！ぎ、ぎもぢよずぎるぅう〜…ッ！」

「だひてぇ(出してぇ)！ふひはへへッ(ぶちまけてぇッ)！んぢゅるるるるんッ！」

「んぎいぃいぃッ！しゅごいぃッ！全部出るッ、搾られるうぅッ！んほぉッ、おッ、ほぉぉんッ！」

「れろれろぉッ、んぢゅッ、ぢゅるるるんッ！」

「んおぉおぉ〜ッ！はぁッ、はぁッ！も、もう出ない…ッ、出ないぃ…っ」

「ごく、ごく♪ぢゅぽんッ！…ぷはぁ～！臭くって…、濃厚で…ッ！はぁぁ～っん！最高～♪」

「おッ、おぉ…ッ！はぁッ、はぁっ、はぁ…ッ！」

「ゲホッゲホッ！…ッはぁぁ～っん！美保ちゃん、乱暴すぎよぉ…♪」

「乱暴にされて興奮してたくせに」

「うふふ。だって美保ちゃんのちんぽがあんまりにも美味しかったからぁ～♪」

「…アタシも、ちょっとムズムズしてきちゃったかも…」

「あらあら。それじゃあ、2人で同時セックスしちゃう？」

「こ、これでいいんだっけ…？」

「久しぶりにやるわねぇ、これ♪んんッ、これでお互いのおまんこにちんぽを入れてぇ…ッ！んおおぉッ？！」

「んおぉッ？！こ、これすごいいぃ…ッ！」

「おまんこと、ちんぽ♪両方気持ちよくなれるものねぇ…ッ！頭おかしくなるぐらいにッ、気持ちよくなれるんだからぁッ！」

「そうだ、みんなちゃんと見えてるかなぁ～ッ？これ、アタシのちんぽがママのおまんこにぃ…」

「私のちんぽがぁ、美保のおまんこに入ってるのよぉ～♪」

「それでぇ、全身をグラインドさせればぁ…ッ！…んひぃいぃッ！！んおぉッ！」

「んぎぎッ？！ぎ、ぎもぢよしゅぎるうぅう～ッ？！」

「んぎいぃッ！全部が気持ちよくて…ッ、もうどこが気持ちいいのか…ッ、わかんないぃいッ！これッ、おかしくなるッ！おかしくなるからぁぁ～ッ！！」

「お"ほッ、ほぉぉんッ！ひぐうぅんッ！」

「んお"ぉッ！これしゅごしゅぎるうぅ…ッ！！んぉお…ッ！お"ぉッ！」

「これホント、すごいぃ…ッ！こんなの…ッ、終盤にするもんじゃないわよぉお…ッ！！」

「こんなの、すぐバテちゃうぅ…ッ！んぐうぅッ、はぁッ、はぁッ！」

「ちょっと腰、動かすだけで…ッ！イきそうなぐらい…気持ぢいいよぉ"お…っ」

「ふんッ、ふんッ！腰振りダンスッ、食らえッ！食らえぇッ！んひぃいい…ッ！」

「お"ぼぉおぉおお〜ッ？！」

「んお"おッ！ママってば身体跳ねすぎッ！んぐうぅッ？！」

「く、くる…ッ！きちゃうう…ッ！だめッ、もう動かしちゃダメぇ…ッ！きちゃうううぅ…ッ！」

「んお"ぉッ？！ママのナカッ、すごく震えてきてるよぉッ？！んぐうぅッ、イくのぉッ？！いいわよッ、イけぇッ！ママ、イッちゃえ！」

「んぼぉおおぉおぉ〜ッ！！！」

「んおぉッ！ママってば、噴乳までしちゃってるじゃん！おっぱいなんて触ってないのにぃ！感じすぎちゃったかなぁ？」

「おぼぉッ、うぼッ、んおぉぉんッ！」

「動物みたいにアンアン喘いじゃってさぁ！身体もビクンビクンさせちゃって！これ完ッ全なメスイキだし！」

「くうぅッ！美保ちゃんだけ余裕ぶってぇぇ…ッ！許さないんだからぁ…ッ！ふんッ、ふんッ！おぉッ！」

「んおぉおぉおッ？！イ、イキながらピストンしてるのぉッ？！なんて体力…ッ！んぐうぅッ、おほッ、ほぉぉッ！」

「ママだってッ！やるときは…ッ、やるんだからぁ…ッ！！ふんッ！ふぅんッ！ほらイけッ！イっちゃえぇッ！」

「んお"ぉッ、んほぉ"おぉおぉ〜ッ！？！」

「んおぉッ！たっぷりざーめんきたぁッ♪ナカにきてるッ！んおぉッ、おほぉッ！」

「んほおぉおおぉ〜ッ！…はふぅ…ッ、はふぅッ！」

「うふふ。これでおあいこね…っ！はぁっ、はぁっ！」

「はぁッ、はぁ…ッ！イかされちゃった…ッ？！」

「はぁっ、ママを見くびらないで欲しいわねぇ～。たしかに美保ちゃんも体力はつけたみたいだけどぉ」

「くうぅ…ッ！」

「今までずぅっと美保ちゃんのことリードしてたのは、誰だと思ってるのぉ～？ほらッ、食らいなさいぃッ！」

「んぐうぅッ！んおぉッ、お"ッ！？や、やるわねぇ…ッ？！」

「あら、美保ちゃんの弱いところなんて、ママは知り尽くしてるのよぉ♪」

「それならッ、まだまだやってやるからッ！…ママのおまんこに、アタシのちんぽ挿入！」

「…むぐうぅッ？！私だって、美保ちゃんのまんこに…ッ、ちんぽ入れちゃうんだからぁ～ッ！」

「アタシがスクワットしてあげるからッ！ママは、ちゃぁんとまんこ締めてね？ふんッ、ふんッ！ふんッ！」

「うぶうぅッ、うぐうぅんッ！さっきまで息切らしてたクセにぃ～ッ！」

「アタシだってッ、いつまでも子どもじゃないんだからッ！ふんッ！ふんッ！」

「くッ、くうぅッ！大人げないけどッ、私も本気ださなきゃいけないみたいねッ！んおぉッ、おほぉんッ！」

「んお"ッ！あへ…ッ、うへぇッ！んおぉッ！おほぉおぉお～ッ！」

「美保はココが弱いものねぇ～ッ♪ほらッ、おッ、おおッ、お"おッ！」

「う"ぅうぅ～ッ！あへぇ…ッ、あへぇぇ…ッ！！」

「それにぃ、内側から亀頭でコスられるのも好きよねぇ～？昔から、ココを弄られるだけでイキそうになってたしぃ～ッ！」

「そ、そこはだめぇッ…！！んお"ぉッ？！う"ぐううぅ…ッ！う"お"おぉッ！」

「う"ぶうぅッ！美保ちゃんッ？！そんなに締めつけたら…ッ、んお"お"ッ？！」

「あへ…ッ、あへえぇぇ…ッ！」

「おぉッ、んほぉぉッ！…はぁッ、はぁッ！」

「んほッ、おほぉおぉッ！」

「お"ぉ…ッ！だらしない声が聞こえてくるけどぉ…ッ、もしかして美保、アへっちゃってるのかしらぁ～？」

「んへッ、あへぇぇ…ッ！…そ、そんなことないからぁ…ッ！」

「そうかしらぁ～？まあ、ママからは見えないけどぉ…、カメラからは見えてるはずだし、あとでアーカイブ確認すればいい話だけど♪」

「う"ぐうぅッ！…ママだってぇ…ッ、この格好…ッ！んぐぅぅッ、恥ずかしくないのぉッ？！」

「…どういうことよぉッ？！」

「身体の上に乗られてぇ…ッ、無様に潰されちゃってさぁ～ッ！娘にいいようにされてぇ～ッ！恥ずかしくないのかなぁ～って♪」

「はぁ～？これは、美保に上を譲ってあげただけで…ッ！」

「えぇ～？声がこもってて聞こえないなぁ～？」

「くうぅぅ～ッ！見てなさいよぉぉ…ッ！」

「お"ッ、お"おッ？！」

「ふんッ、ふんッ！こうなったら、私諸共イかせてあげるわよ！んおぉッ、おぉッ！」

「ちょっと、ママぁッ？！いきなり激しすぎぃ"ぃ…ッ！」

「美保が調子に乗るからじゃないッ！ふんッ、ふんッ！お"ッ！ママに逆らったらどうなるかってこと、しっかり教えてあげないと…ッ！」

「んぎいぃいぃ…ッ！お"ッ、おおッ、お"ぼぉおッ！」

「腰を使って…ッ、んお"ッ！…一気にぃ…、ふんッ！！」

「お"ッ、お"おぉおッ？！」

「ふんッ、ふんッ！ふんッ！」

「これッ、ヤバぁ…ッ！んお"ッ！イくッ、イっちゃうよぉおお…ッ！」

「ちょっとぉッ？！美保ちゃんッ、いきなり締めないでぇ…ッ？！んぎいぃッ？！お"ッ、おおッ！私もイっちゃう…ッ、からぁ…ッ！」

「お"ぼおぉッ？！んぼおぉぉおお…ッ！！」

「んぶぶぶうぅッ？！う"ぐゥうゥ～ッ！！」

「んお"ぉ…ッ！お"ッ、お"ッ？！」

「んひぃぃいぃ～ッ！？んぎいぃッ！」

「ママってば…ッ、んお"ッ、締めすぎ…ッ！」

「しょうがない…ッ、じゃないのぉッ！イってるんだからぁぁ…ッ！んお"おッ！」

「そんなに…ッ、お"ッ、締められたらぁ…ッ、また出るうぅッ！お"おッ、出る出るうぅッ！」

「うぶう"ぅッ？！もう入らない…ッ、わよぉお…ッ！う"ぐぅ、ママも中出しで…ッ、イぐぅッ！んお"ッ！お"ッ！」

「んぎぃ"ッ？！ママも…ッ、出しすぎだってばぁッ！んお"ッ、お"おッ！」

「美保こそぉッ！お"ッ！締めすぎよぉ…ッ！ママのちんぽに…っ、まとわりついて…ッ、あひぃいんッ！」

「あひぃ…ッ、あへ…ッ、あへぇぇ…ッ！」

「はぁッ、はぁぁんッ！もうッ、これ以上はだめ…っ！」

「そうね…ッ、アタシも、限界よ…っ！はぁっ、はぁぁッ！」

「やっぱりこの体位は、最後にすべきじゃなかったわね…っ！はぁっ、はぁっ！」

「はぁッ、はぁッ！汗と汁で身体、ベッタベタになっちゃった…」

「私も…。それに、こんなはしたないこと…ッ、配信してただなんてぇ…っ」

「はぁッ、はぁッ、はぁぁッ！…アタシってば、もう、配信してたってこと…っ、すっかり忘れてたぁ…っ」

「む、夢中になりすぎた…、わね…っ。はぁっ、はぁ…っ」

「う"うぅ…ッ！身体が…ッ、重いぃ…ッ！…って、まだ出てるよぉぉ…ッ！」

「んぼおぉ…ッ！中出しきてるううぅ…ッ！」

「あ"ぁ…ッ！」

「お"…っ、お"おお…ッ！！」

「あ…ッ、あへ…ッ」

「ああ…ッ、あ…ッ。あへ…ぇッ」

「こ、これで…、今日の配信は…、おわりでぇす…」

「みなさぁん、ありがとう…ございましたぁ…」

「また、あしたもぉ…」

「みてください…ねぇ…♪」

♪
ガタン
ゴゴゴ…
ゴトン
キキキキ
駅
パアン

ビクッ
ビクッ
ブルルルッ
ブルッ
にゅるん
ブルッ
もぞっ

えっ なに？

鎧が突然…

もじ
もじ
電車の中なのに
ヤバイって
あっ キモチイ♡
じっーーっ
カク
ハッ
カク
ハクハクッ

ヤバ！
しまった～
ボッキしてたの
見られちゃってたかも～！
かあああっ
キャー
スカートに
変なシミがぁ～！
じわっ♡
びく
びく
ぐいいいっ
プシュー
だっ

WC
こんなところでオナニーなんてこれじゃ変態だよぉ…
そぉ…
でも…
ハァ
くちゅ
くちゅ
止められない…ッ♡
ハァ

んぎぃぃぃぃぃぃぃぃ!!!
タッ
声とまんないっ
早く人のいないトコ〜
タッ
タッ
あぁぁぁぁぁぁぁぁ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ポタッ
ポタタッ
トイレトイレトイレトイレトイレトイレ
ガッ

あ…
イヴ…ゥゥ♥
ゥゥゥ♥
ゥゥ!!!
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ひゅっ♥
ひゅっ♥
びゅるるっ
びゅっ
ぴゅっ
ぴゅぴゅぴゅ
おおっ♥
おおんっ♥

キイ…
ニヤッ

バタン
ムギュッ
こんなところに同族がいたなんてね
ふーん
すりすりっ
ムチ
ムチ
ス…

ハラッ
ぷるん♥
ブルッ
ビッ
バッバッバッ
ドッ

バッ
!!
ガリィ
ムッ
ズッ
ズッ
あっ!?

キャッ
離し…ッ！
ズリ
プッ
あっ♥
パンパン
あっ♥
ヌプッ
パチュ
ヌップ
パチュ
あん♥

ぐっ
このままじゃ…！
ぐいいっ
ヌッ…
ズルッ
ズルズルッ
ポッ
なッ!?
ズプッ

ふふ
かき混ぜなさい♡
ブルッ
ヴチュッ
ヴチチッ
びくっ
ひっ
あ゛あ゛あ゛あ゛あ゛
プシャァアアァ

ガチッ
ギチッ
あーあー
みっともないおもらし♡
ビュッ
ジョワッ
バッ
ジャ
バッ
ジャ
ギリッ
ギリッ
ダメですよ～
ハミ出しちゃ～
ギギギ…
ほら、
ちゃんとおトイレに
ぴゅっぴゅって♡
ビュッ
ビュビュッ

だいぶ おとなしくなったね～♡
もぉ…
もぉムリ…
むわ♡
ムロ
むわ♡
すっぽし♡
おほっ♡ケツアナたまんない♡
びくっ
びくん♡
おんっ♡
ぐちぃぃ

おちんちん
トロける〜♡♡
すぐ出ちゃいそ♡
パーン
パーン
おッ♡
あひっ♡
パーン
パーン
ギモヂイイ♡
おお♡
あ♡
抵抗できにゃい♡♡
負けちゃうう♡♡
あへ♡

あっ♡
びゅくっ
どぴゅ♡
おほ♡
ほらほら
負けちゃいな〜♡
イグゥゥ
ゥゥゥ♡
どびゅっ
ぶびびっ
プシャ
アアアア
うわっ
射精しながらメスイキ
気持ちよさそー♡

それじゃ楽しかったし
お礼してあげよっかな〜♡

ごっ…ごっ…
こぽっ

カシャッ

コポポポ

ボッ

ボッ

ひゃいっ

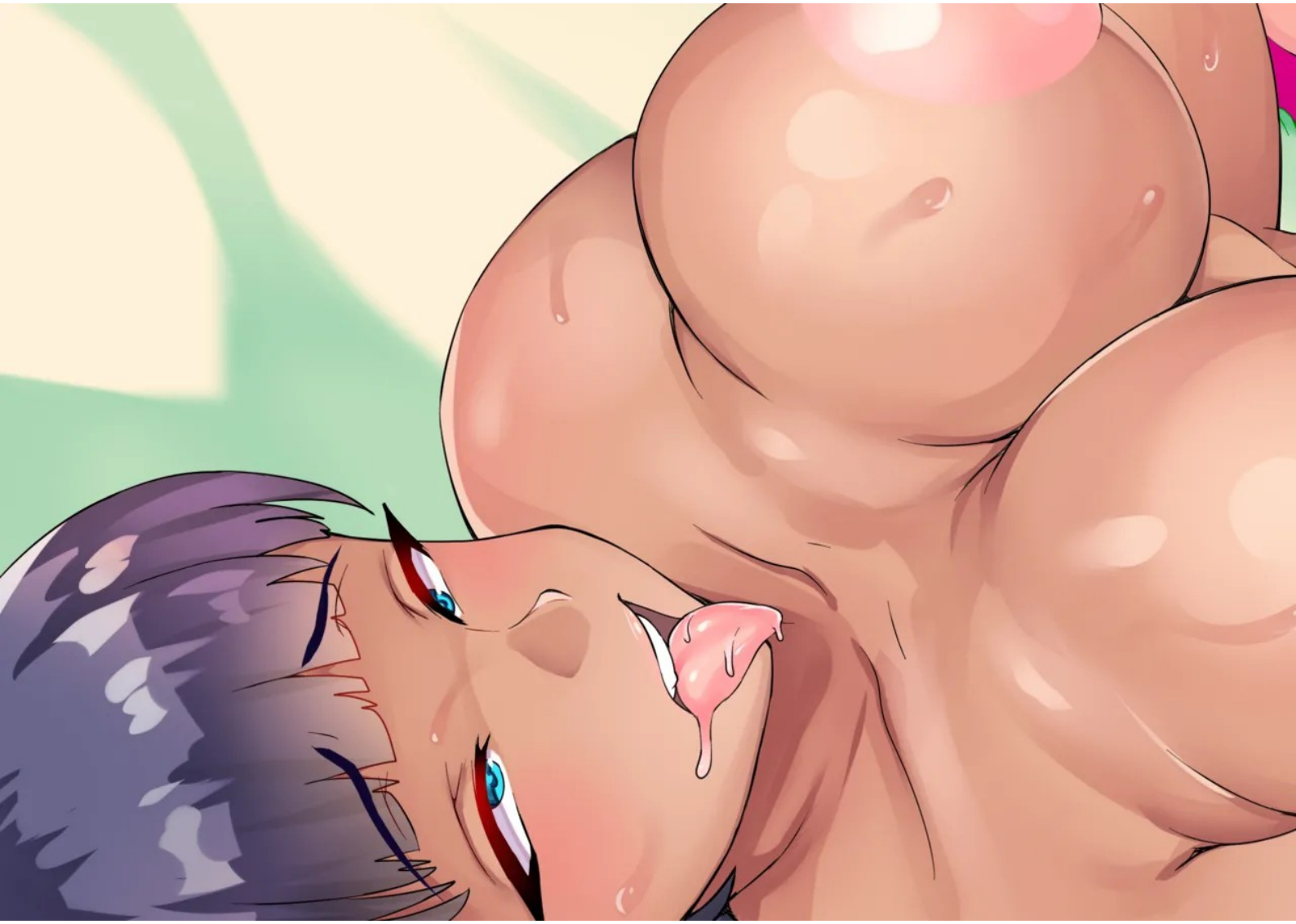
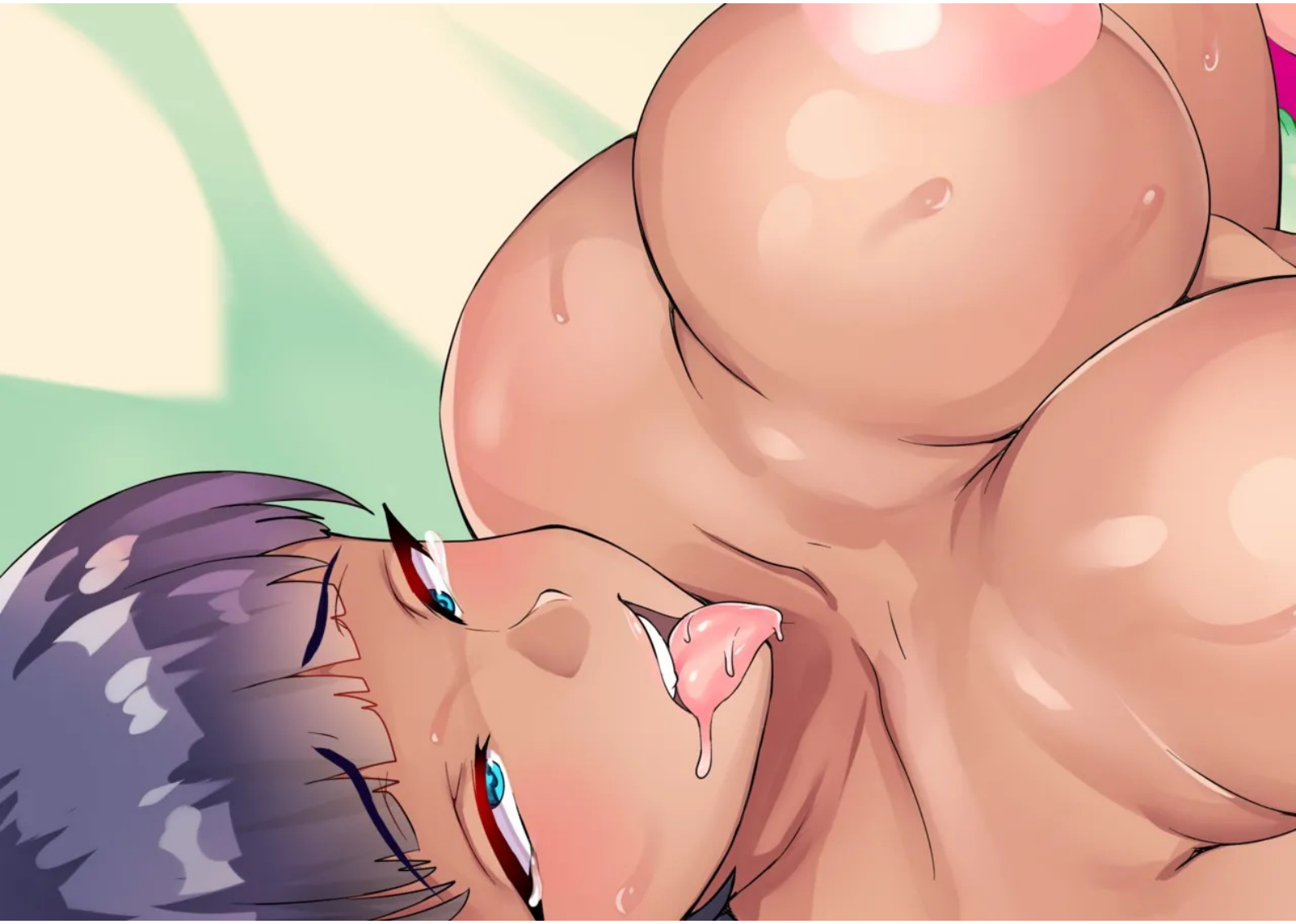
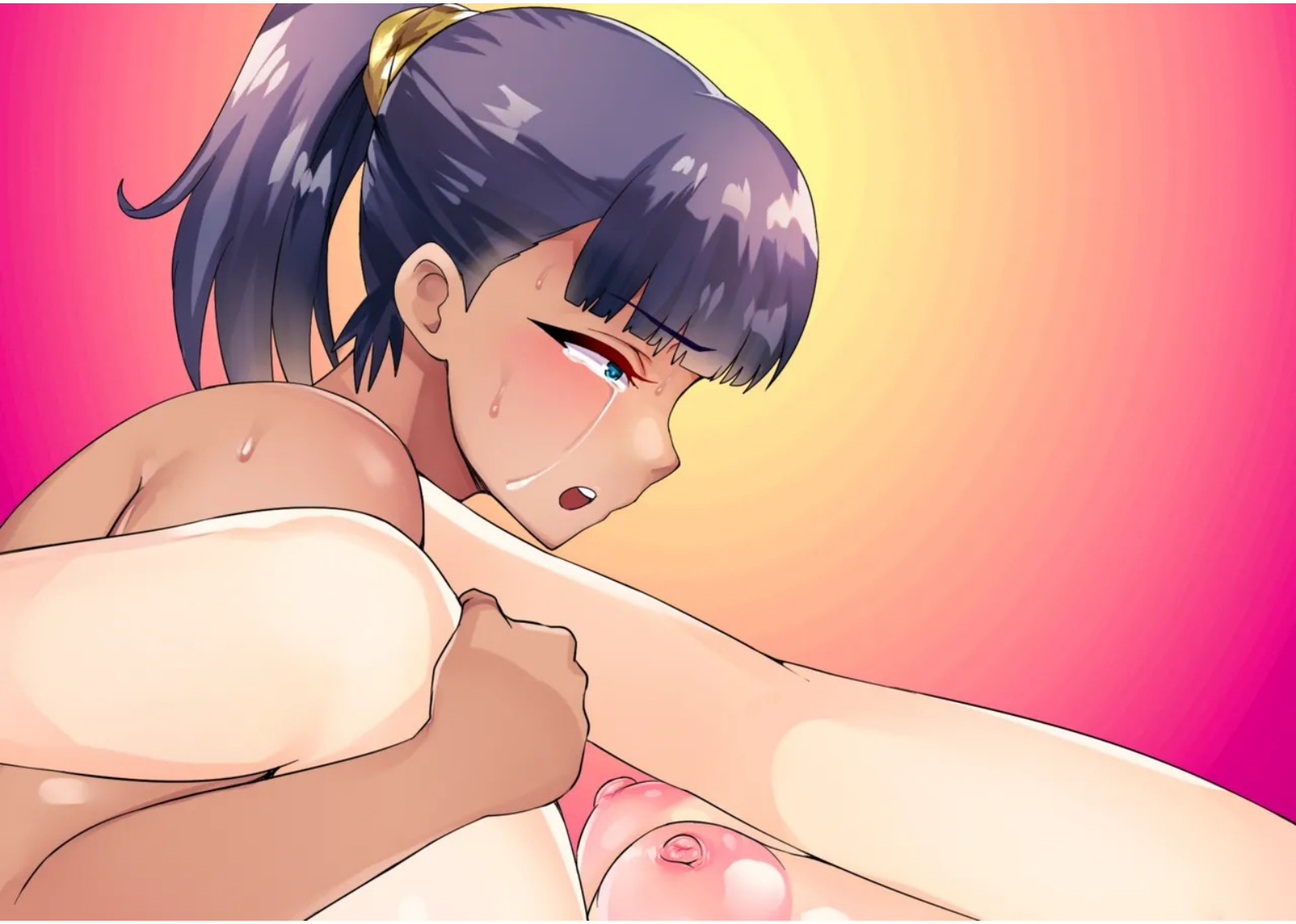
ごひゆーに
おぶはいくや
なぃぇ

ボ

ボッ

ボ

バシャ

バシャ

マーキング完了〜
また遊んでねー♡